

右代理
英國代表
右代理
日本代表
右代理
國際聯盟事務局

フレデリク、ドルベール
アール、エイチ、キヤムベル
エイチ、アール、ムーア
佐藤 尙武
白鳥 敏夫
ハワード、アール、ハストン

第五、佛國情報員

外務省國際聯盟局長全權公使
國際聯盟常設諮問委員會補助海軍代表
外務省國際聯盟局大使館書記官

伯爵
クラウズエル
ドルーズ
ジャン、ボール、ボンクール

第六、伊國非公式傍聽者

海軍軍令部附
國際聯盟常設諮問委員會海軍代表
同 補助海軍代表

海軍大佐
ドン、ファブリジオ、ルスボリ
海軍中佐
ドン、ウムベルト、クシア、デイ、
サンタ、オルソラ

第三編 總會議々事錄

第一、第一回總會

（議長 ヒュー、ギブソン氏）
一九二七年六月二十日（月曜日）開催

出席者
米國側

ヒュー、ギブソン
ヒラリー、ビー、ジョーンズ
エイ、テイ、ロング
エフ、エイチ、スコフィールド
エイ、ダブリュ、ダレス

英國側
英本國

子爵
ダブリュ、シイ、ブリヂマン
セシル、オブ、チエルウッド
サー、エフ、フィールド
ダブリュ、エイ、リッデル博士

加奈陀
濠太利
新西蘭

海軍中將
サー、デュー、クック
サー、デュー、バール

南阿聯邦

愛蘭自由國

印度

日本側

海軍元帥伯爵

デェリ コー

海軍少將

エイ、エフ、ビール

デエイ、エス、スミット

ダブリュ、シイ、ブリヂマン

海軍大將子爵

齋 藤 實

子爵

石井菊次郎

佐分利貞男

海軍中將

小林 躋 造

海軍少將

原 敢 二郎

事務總長

ヒュー、アール、ウイルソン

アール、エイチ、キヤムベル

佐 藤 尙 武

ハワード、アール、ハストン

伯爵

クラウズエル

海軍中佐

ドルーズ

デャン、ボール、ボンクール

伊國非公式傍聽者

海軍大佐

ドン、ファブリジオ、ルスボリ

議長選舉

海軍中佐

ドン、ウムベルト、クジヤ、デイ
サンタ、オルソラ

「ギブソン」氏―諸君、本會議ハ合衆國大統領ノ提案ニ基キテ開カルルニ至リシモノナルカ故ニ予ハ米國代表部ノ首席トシテ本會議ヲ組織スル爲會合ヲ召集スル義務ヲ有ス第一ニトルヘキ手段ハ議長選舉ナリ此點ニ關シ日英兩國全權ノ提議ヲ歡迎ス

「ブリヂマン」氏―予ハ「ギブソン」氏カ本會議々長ノ椅子ニ就カレンコトヲ提議スルノ光榮ヲ有ス氏ハ本會議召集國ヲ代表シテ茲ニ會議ヲ開會セリ予ハ氏ニ議長タルヘキコトヲ懇請スルハ最モ適當ナリト思惟ス故ニ予ハ「ギブソン」氏カ本會議々長タルヘキ動議ヲ提出ス

齋藤子爵―予ハ日本側ヲ代表シ英國全權提議ニ衷心賛成ス

「ギブソン」氏―他ニ何等提議ナシトセハ予ハ予カ議長タル指名ヲ受ケタルヲ最モ光榮トシ且本會議々長トシテ盡スヲ特權ナリト思惟ス此機會ニ當リ予ヲ指名セラレシ兩全權ノ演說ニ深甚ノ謝意ヲ表ス

議事規則

議長―今諸君ノ前ニ議事規則（附屬書第一號）ヲ配布シタルカ本規則ハ既ニ各全權ノ同意ヲ得タルモノニシテ右ニ對シ新ナル提議又ハ反對ナシトセハ右ハ採用セラレタルモノト致シ度シ

何等反對ナキニヨリ本議事規則ハ會議ノ規準トシテ採用セラレタモノト思惟ス

議事手續

議長―茲ニ代表セラルル各國間ノ豫備的合意ニ基キ米國側ハ本會議事務總長ノ任命ヲ求メラレタリ議長ハ瑞西國駐劄米國公使「ヒュー、ウイルソン」氏ヲ選任シ公使館參事官「フレデリック、アール、ドルベア」氏ヲシテ補佐セシム英國側ハ「アール、エイチ、キヤムベル」氏ヲ總書記局ニ於ケル英國代表者ニ指名シ海軍大佐「エイチ、アール、ムーア」氏ヲシテ

補佐セシメ日本側ハ全權公使佐藤尙武氏ヲ其ノ代表者ニ指名シ大使館一等書記官日島敏夫氏ヲシテ補佐セシムルコトトセリ

國際聯盟事務總長ハ同事務局ノ設備ヲ本會議ノ自由使用ニ委シ又事務ノ進行ヲ容易便宜ナラシメンカ爲「ハワード、ハストン」氏ヲ本會議總書記局ノ事務官トシテ任命セラレタリ予ハ此ノ機會ニ於テ「サー、エリック、ドラモンド」氏カ事務局ノ設備ヲ吾人ノ自由使用ニ委セラレタル厚意ニ對シ深く感謝ノ意ヲ表スルモノナリ斯ノ如キ便宜供與カ本會議ノ諸問題ヲ有效ニ處理スル上ニ寄與スルコト大ナルヘキハ予ノ確信スル所ナリ

全權委任狀審査委員任命

議事規則ハ全權委任狀審査委員ノ任命ヲ規定ス故ニ予ハ各國側カ其ノ全權委任狀ヲ事務總長ニ提出シ之ヲシテ審査委員ニ附託セシムヘキコトヲ提議シ又各國首席全權ハ各自國隨員中ヨリ一名ヲ任命シテ右委員會委員タラシメ其ノ氏名ヲ總書記局ヘ通知スヘキコトヲ提議ス(委員會報告書ニ付テハ附屬書第二參照)

幹部會任命

議事ヲ促進スル爲予ハ本會議ヲ委員會ノ議案ヲ用意シ或ハ委員會ノ創設及本會議事業ノ始末等ニ關シ適當ナル勸告ヲナシシカ爲メ幹部會ヲ組織スルコトヲ提議ス予ハ幹部會ノ構成ニ關シ何等具體的提案ヲナスニ躊躇ス若シ他國側ノ同意ヲ得ルニ於テハ主席全權ハ明日午前十一時D室ニ參集シ事務總長ト共ニ此ノ問題ヲ協議セラレンコトヲ提議ス今日ノ總會ニ於テハ幹部會ノ創設以外他ニ新ナル委員會ヲ設クルノ必要ナシト信ス

最後ニ本會議ヲ代表シ佛、伊兩國代表者ノ來會ニ満足ノ意ヲ表シ衷心之ヲ歡迎スルハ予ノ最も欣快トスル義務ナリ事務總長ハ先ツ此ノ旨ヲ彼等ニ傳ヘ本會議及委員會ニ於テ其ノ傍聽ヲ歡迎スル旨ヲ知ラシムヘシ

「クローリッヂ」大統領宛謝電

海軍大將齋藤子爵—議長並ニ諸君、會議ノ組織終了シタルヲ以テ予ハ議事ニ入ルニ先チ本會議召集者タル合衆國大統領ニ

對シ挨拶ノ辭ヲ送ルヲ適當ナリト信ス予カ提出スル謝電案ハ左ノ如シ

『海軍軍備ノ負擔ト危險トヲ輕減スル目的ヲ以テ本會議ヲ召集セラレタル合衆國大統領ノ仁慈ニシテ賢明ナル提議ニ對シ衷心感謝ノ意ヲ表シ茲ニ會合セル參加國代表者ハ大統領ニ最高ノ敬意ヲ表シ且本會議カ最も良好ナル結果ヲ得ン事ヲ切望スル旨ヲ傳ヘント欲ス』

「ブリヂマン」氏—予及隨員一同ハ齋藤子爵カ起草セラレタル「クローリッヂ」大統領ニ對スル謝電ニ同意ス

議長—右カ本會議ノ希望ナルニ於テハ事務總長ハ本電文ヲ合衆國大統領宛發電セラレタシ予ハ此ノ機會ニ於テ米國側ハ齋藤子爵ヲシテ此ノ謝電ヲ提議セシムルニ至リシ友情ヲ特ニ感銘セルコトヲ申述ヘ度ク又之ニ同意セラレシ「ブリヂマン」氏ニ感謝ノ意ヲ表セントス

ヒュー、ギブソン氏(議長)聲明

合衆國大統領ノ次ノ如キ「メッセージ」ヲ諸氏ニ傳フルハ予ノ欣快ナル義務ナリ

「華盛頓條約」ノ原則ヲ擴張シ以テ海軍々備ノ制限ヲ行ハンカ爲メ日英兩國代表カ合衆國代表ト相會スルハ余ノ深く満足トスル所ナリ三國間ニ於ケル海軍競争ヲ其ノ如何ナル形ニ於テモ不可能ナラシメントスル協定ハ永ク三國間ニ現存スル友好關係ヲ鞏固ナラシムヘク且一般の軍備制限ノ共同目的ニ向テ決定のニ一步ヲ進ムルモノナリ合衆國ハ斯ル協定ノ成立ニ最善ノ努力ヲ爲スト云フハ結局米國民ノ抑ヘ難キ感情ヲ解説スルニ過キササルモノナル事ヲ日英兩國代表ニ傳ヘラレ度シ」

「カルヴィン、クローリッヂ」

大統領提議ニ對スル日、英兩國政府ノ回答及諸氏ノ本會議出席ハ華府條約ノ原則ヲ擴張シ以テ建艦競争ヲ防遏セントスル大統領ノ希望ト其ノ見解ヲ等シクセルコトヲ明ニセリ從ツテ吾人ノ事業ハ有利ノ事情ノ下ニ開始セラレタルモノニシテ共同ノ目的及共同ノ利害ヲ有シ且相互ニ好意ヲ有スル吾人カ吾人ニ託セラレタル問題ヲ満足ニ解決シ得ヘシト考フルモ蓋シ不當ニ非スト信ス

華府條約署名國全部カ本會議ニ參加スルヲ得ナリシハ遺憾ニシテ本會議參加國ハ凡テ此ノ感ヲ有スルナルヘシ然レトモ佛伊兩國カ海軍建造計畫制限ニ關スル吾人ノ希望ニ同感ナルハ疑ナカル可ク予ハ本會議ノ成果ハ佛、伊兩國ヲシテ五國カ開始シ五國カ共同ノ平和事業トシテ繼續スヘキ事業ニ將來兩國ノ協力ヲ容易ナラシムルノ性質ヲ有スルモノト信ス右事業ノ可能ナル時期迄吾人ハ本會議ニ派遣セラレシ佛、伊兩國代表ヲ衷心歡迎ス

當地ニ於ケル軍備縮小委員會ノ事業ニ鑑ミ海軍々備制限會議カ當壽府ニ開カルルハ最も適當ナリ予ハ吾人ヲ歡待セラレツツアル瑞西聯邦ノ好意ニ對シ合衆國政府ノ謝意ヲ傳フルト共ニ本會議ニ其ノ設備ヲ提供セラレシ國際聯盟事務總長ニ感謝ノ意ヲ表セントス

本會議ハ只ニ海軍々備制限ノ實行可能ナリヤ否ヤヲ決定スルニ役立ツノミナラス一般の軍備制限問題處理ノ實行性ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ其ノ影響スル所極メテ廣汎ナルヘシ吾人ハ軍備問題ノ最も簡單ナル部分ヲ取扱ヒツツアルコトヲ認メサルヘカラス吾人ニシテ若シ失敗センカ陸軍及空軍々備制限ノ努力ニ一大打擊ヲ與フルニ至ルヘシ反之吾人ニシテ成功センカ軍縮準備委員會ヲシテ全般的の軍備制限會議ヲ開催セシムルニ甚大ナル援助トナルヘシ

吾人ハ主要海軍國ヲ代表セルカ故ニ新海軍々備制限ノ發議ヲナス責任ヲ負擔スルハ蓋シ適當ナルヘシ吾人ニシテ其ノ海軍ヲ制限スルノ意ナクハ他國ノ制限ヲ期スルコト能ハス幸ニシテ吾人ハ一九二一年華盛頓ニ於テ發議セラレシ制限案ヲ完成センカ爲此處ニ會合シ且吾人ハ會議ノ基礎トシテ五年間實際ニ適用セラレタル原則ヲ有スルカ故ニ吾人ノ事業ハ一層容易ナルモノアリ

更ニ吾人ハ左ノ諸點ニ關シ明確ナル合意ヲ以テ商議ヲ進ムルコトヲ得ヘシ

一、國際の了解ノ爲三國間ニハ海軍軍備建造競争ヲナササルコト

二、三國ノ海軍ハ國家の安全ヲ害セサル最小限度ニ於テ維持セラル可ク侵略の意思ヲ疑ハシムルカ如キ大キサ又ハ性質

ノモノタルヘカラサルコト

三、賢明ナル財政節約ハ將來ノ建造計畫ヲ最小限度ニ止メ置クコトヲ要求スルコト

四、華府條約ニ規定セララル制限方法及原則ハ實際の且有效ナルカ故ニ三國ノ凡ユル種類ノ軍艦ニモ之ヲ擴張スヘキモノナルコト

上述ノ四點ハ此處ニ代表セララル各國ノ要求ヲ考慮スルニ當リ有益ナル合意ノ基礎ヲナスモノナリ諸氏ノ同意ヲ得テ余ハ茲ニ米國政府ノ見解ヲ概説スヘシ

華府會議ニ於ケル米國政府ノ提案ハ主力艦ノミナラズ補助艦ヲ包含シタルモノナリ當時明カニ優勢ナリシ主力艦ヲ犠牲ニスルニ先チ吾人ハ凡テノ艦種ニ互ル一般の制限ヲ主張スルヲ得タリシナリ蓋シ米國政府ハ包括の協定ヲ成立セシメ得ザルニ於テハ或ル種ノ軍艦ニ付依然海軍競争ノ禍ヲ殘スガ故ニ斯ル一般の制限ヲ希望シタルナリ然レドモ斯ル包括の協定ノ作成ニハ實際的障礙起レルヲ以テ米國政府ハ補助艦ニ關スル其ノ原案ヲ支持スルニ於テハ會議ノ成功ヲ害シ且海軍制限ヲ無期延期ニ導クノ虞アリト思惟シタル故ニ吾人ハ協定ノ範圍ヲ制限シ且主力艦及航空母艦ノ制限實現ノ爲努力シタリ吾人ハ華府條約署名國カ何レモ此種軍艦ノ制限ヲ實現センガ爲種々實質的讓歩ヲナシタルコトヲ認ム又當時米國ノ犠牲ハ他國ニ比シ數字上遙ニ大ナリシカ吾人ハ今日之ヲ後悔スルモノニ非ス華府會議ノ成熟セル結果ハ右ヲ完全ニ立證セリ

予ハ補助艦ニ關スル米國海軍ノ狀態ハ主トシテ米國カ此等艦種制限ニ付キ協定成立ノ望アル限り大規模ノ建造計畫ヲ樹ツルヲ好マサリシニ基クモノナルコトヲ指摘セントス大統領カ最近建艦競争ノ必要及原因ヲ除去スヘキ協定ノ成立ヲ望ミ其ノ勢力ヲ利用シテ米國海軍建造案ヲ延期セシメタルハ周知セラルル所ナリ

米國ノ海軍軍備ニ關スル政策ハ充分ナル防禦ヲ以テ唯一ノ目標トス吾人ハ他國ニ脅威ヲ感セシムルガ如キ海軍力ヲ保持セントノ意思ナク又如何ナル艦種ヲ問ハス競争の建造計畫ヲ立テ他國ヲシテ必要トセラルル以上ノ軍艦ヲ建造セシムルニ至ルガ如キコトヲナスノ意向ヲ有スルモノニ非ス

此ノ政策ニ基キ合衆國ハ補助艦ノ各艦級ニ付テモ華府條約ノ比率ヲ基準トシテ本會議參加諸國ガ受諾シ得ル範圍内ニ於テ

最低總噸數ヲ定ムル一般の制限案ヲ承認スルノ用意アリ米國代表ハ各艦種噸數ノ公平ナル割當案ヲ持シテ本會議ニ出席シ何等嚴格ナル數量の提案ヲ有セス吾人ハ噸數問題ニ付テハ各國ノ正當ナル必要ニ照シ充分且隔意ナク討議セントス吾人ハ將來大規模ノ建造案ヲ立ツル必要ヲ除去スル眞實ノ海軍制限ヲ希望ス從テ吾人ハ各種補助艦ニ付テ不相應ナル大噸數ヲ定ムルハ此目的ヲ達スルモノニ非ズト思惟ス

米國提案ハ左ノ考慮ニ基クモノナリ

一、華府條約ノ比率及原則ヲ巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ニ適用スルコト

二、三國間補助艦建造制限協定ハ華府條約ト同期限トナシ且延長及變更ニ關シテモ同様ナル一般の規定ヲ設クルコト右協定非加盟國ガ大規模ノ建艦計畫ヲ立ツル場合ニ於テ協定變更ニ關スル追加規定ヲ設クルコト

三、將來ノ海軍軍備制限ノ爲補助艦ヲ四種ニ分チ其ノ中三種即チ巡洋艦、驅逐艦、潛水艦ニ付テ左記制限規定ヲ適用シ戰闘用價直少キ第四種ニ付テハ之ヲ適用セズ

(イ) 巡洋艦種、三千噸以上一萬噸以下ノ戰闘用水上艦艇ヲ含ム

(ロ) 驅逐艦種、六百噸以上三千噸以下ニシテ十七節以上ノ速力ヲ有スル凡テノ戰闘用水上艦艇ヲ含ム

(ハ) 潛水艦種、海面下ニテ行動スヘク設計セラレタル凡テノ艦艇ヲ包ム

(ニ) 制限外艦種、戰闘用價直少キ他ノ艦艇ヲ包ム、本艦種ニ屬スベキ艦艇ノ定義ハ技術的協定ニ依リテ之ヲ定ム各艦種ノ割當噸數ヲ提議スルニ先チ予ハ各國海軍ノ要求ハ相關的ナルコト、一國ニ於ケル建造計畫ハ他ノ國ニ於ケル同程度ノ計畫ヲ促スコト、及三國ノ中一國ノ噸數カ調節セラルルニ於テハ他ノ凡テノ國ノ噸數モ夫ニ順シテ調節セラルヘキコトヲ吾人ハ卒直ニ承認セルコトヲ陳述セントス米國代表カ討議ノ基礎トシテ提出セル割當噸數ハ次ノ如シ

巡洋艦種	制限總噸數
合衆國	二五〇、〇〇〇乃至三〇〇、〇〇〇噸

英帝國	驅逐艦種
日本	二五〇、〇〇〇乃至三〇〇、〇〇〇噸
日本	一五〇、〇〇〇乃至一八〇、〇〇〇噸

合衆國	驅逐艦種
日本	二〇〇、〇〇〇乃至二五〇、〇〇〇噸
英國	二〇〇、〇〇〇乃至二五〇、〇〇〇噸
日本	一二〇、〇〇〇乃至一五〇、〇〇〇噸

潛水艦種	合衆國
英國	六〇、〇〇〇乃至九〇、〇〇〇噸
日本	六〇、〇〇〇乃至九〇、〇〇〇噸
日本	三六、〇〇〇乃至五四、〇〇〇噸

然レトモ日、英兩國ノ中補助艦總噸數ニ付之ヨリモ低キ基準ヲ提案セントセララルルニ於テハ米國政府ハ斯ル提議ヲ歡迎スルモノナリ

比較的新ナル或種艦艇ヲ廢棄シ之ト同時ニ他種艦艇ヲ建造スル浪費の手續ヲ除カンカ爲米國提案ハ或ル期間ニ互リ巡洋艦ト驅逐艦トノ間ニ於ケル調節ヲ考慮シタリ

各海軍國間ニ於テ潛水艦廢止ノ一般の協定成立ノ見込アルニ於テハ合衆國ハ之ニ好意的考慮ヲ加フヘキモ我政府ハ斯ル協定カ承認セラルル爲ニハ必然全般的ナラサルヘカラスト思考ス

上記提案ノ技術的詳細ニ關シテハ印刷物ヲ以テ諸氏ニ配布シ置ケリ(附屬書第三參照)

吾人ハ吾人ノナサントスル事業ノ困難ヲ輕視スヘカラサルモ之ニ樂觀的態度ヲ以テ臨ムコトヲ得ヘシト信ス吾人ノ遭遇スヘキ困難ハ元來各國ノ當面セル海軍技術上ノ諸問題ノ性質ノ相異ル點ニ存スルモノナリ

吾人ハ各自ノ必要ヲ尊重シ相互ニ讓歩的精神ヲ以テ此種問題ヲ取扱フコトヲ得ヘク又之カ決定ヲナスコトヲ得ヘシ吾人ハ他國ノ脅威タル可キ海軍力ヲ保持スルノ權利又ハ利益ヲ有セサルモ自國防衛ノ正當ナル要件ヲ充スニ必要ナル海軍力ヲ保持スルノ權利ヲ有ス三國民間ニ現存スル友好關係ニ徴スルニ吾人ノ中ニ相互ノ危虞ノ原因トナルヘキ海軍計畫ヲ考慮スルモノアリトハ考フルコトヲ得ス吾人ハ吾人ノ國家及國民間ニ現存スル眞摯ナル了解ノ感情ヲ忠實ニ文書ニ表示シ以テ人力ノ能フ範圍内ニ於テ海軍競争ヲシテ吾人相互間ノ關係ヲ亂スコトナカラシメントスルモノナリ

「ダブリュ、シイ、ブリデマン」氏聲明

議長並諸君—予ハ英國代表ノ一人トシテ本會議ニ參列スルヲ予ノ大ナル特權トシ先ツ英國政府ノ爲ニ合衆國大統領ニ對シ招請ヲ發セラレタルコトヲ謝シ、瑞西聯邦ニ對シ其ノ款待ヲ謝シ、國際聯盟ニ對シ壽府ニ於テ種々ノ設備ヲ提供セラレ且會議開始ニ凡ユル助力ヲ致サレタル厚意ヲ謝セント欲ス

吾人ハ容易ニ本招請ヲ受諾スルヲ得タリ蓋シ「クーリッヂ」大統領招請受領數日前予ハ總理大臣ニ對シ海軍省カ過去數ヶ月ニ互リ考案シタリ或ル種ノ提案ヲ提出シ華府會議參加諸國間ニ於テ右提案ヲ考慮ノ爲會議ヲ召集スルコトヲ得ルヤヲ確カムル手段ヲトルヘキコトヲ要求セルカ爲ナリ其ノ後數日ニシテ大統領ノ招請ヲ受領シ會議ノ範圍カ單ニ比率ノ討議ニ限定セラルル事ナキヲ通知セラルルニ及ヒテ斯ル手段ハ不必要トナレリ

佛、伊兩國政府カ本會議ニ正式ニ參加スルヲ得サリシハ英國政府ノ大ニ遺憾トスル所ナリ然レトモ予ハ本會議ニ於テ締結セラルヘキ協定ハ近キ將來ニ於テ兩國政府ノ參加ヲ容易ナラシムル如キ性質ノモノタランコトヲ切望スルモノナリ

本會議カ茲ニ代表セラルル三國間及其ノ他招請國間ノ關係最モ友好的ナル今日及既ニ「ギブソン」氏ノ述ヘラレタル如ク各國カ忠實ニ華府條約ヲ實行セル今日開催セラルルハ吾人ノ欣幸トスル所ナリ

一九二一年華府會議ノ業績ノ眞價ハ未タ普ク知ラレ居ラサルヘシ予ハ少シク同會議前即チ六ヶ年以前ニ於ケル狀勢ヲ回想セントス

當時既ニ十八乃至二十吋砲ヲ備フル排水量四萬五千噸ノ大戰艦建造計畫考慮中ニシテ右軍艦ノ數ハ各國カ其ノ建造及維持ノ負擔ヲ甘受シ又其ノ能力ヲ有スルヤニ依リテノミ制限セラルル狀勢ニアリタリ各國ハ相互ニ警戒シ破壊的競争再開ノ危險急迫セルモノアリタリ

華府會議ハ斯ル狀勢ヲ終焉セシメタルモノニシテソレ自體一大成功ナリ加之同會議ハ協定ニ依リテ一國海軍力ノ規模ヲ制限スルノ可能ナルヲ證明セリ

吾人ハ今ヤ此ノ原則ヲ更ニ擴張スルノ時期熟シタリト信ス而シテ予ハ軍備ノ進歩的縮小ニ一段階ヲ劃シ且各國カ各自ノ海上安全ヲ維持シツツ其ノ海軍々備ノ標準ヲ縮小スルニ至ルヘキ案ヲ茲ニ提出スルノ權限ヲ委任セラレタリ

予ハ吾人カ凡テ協定ヲ作成セントスル熱烈ナル希望ニ動カサレ且各國各自ノ立場ヲ相違セシムル特殊ノ事情ヲ諒解スル用意ヲ有スルコトヲ確信スルモノナリ故ニ各國カ各々其ノ欲スル海軍勢力ノ程度及理由ヲ卒直ニ述フルニ於テハ會議ハ満足ナル成果ニ到達シ得ヘキモノナリト信ス「ギブソン」氏ノ既ニ述ヘラレタル如ク予ハ今日茲ニ代表セラルル國ノ中何國モ侵略的目的ノ爲ニ其ノ海軍ヲ要求スルモノアリト思惟セス而シテ吾人ハ吾人ノ現有益防護上必要ナルモノヲ考慮スルカ爲ニ茲ニ會合セルモノニシテ純然タル防禦的考慮ニ立脚スル要求ヲ支持スル爲論議スルノ用意ヲ有スルモノナリ

從テ予ハ先ツ英本國及英帝國ノ立場ヲ支配スル考慮ヲ説明スヘシ

然レトモ予ハ從來未知ノ祕密ヲ明カニセントスルモノニ非ス實ハ只陳腐ノ言ヲ繰返スニ過キササルヘシ

予ハ討議ノ基礎ヲ明白ナラシメンカ爲次ノ事實ヲ陳述セントス勿論會議ハ他國ノ爲他ノ考慮ニ對シ特別ノ注意ヲ拂フヘキヲ了知ス

先ツ第一ハ予カ代表スル本國ノ島嶼ノ地位及英國ハ原料品ノミナラス食糧品ノ供給ヲ殆ント全部他國ニ仰ク事實及英國ノ存在ハ全然海上ニ於ケル自由交通ニ存スルコトナリ若シ我國トノ海上交通ニシテ杜絶セラレンカ數週間ナラスシテ吾人ハ飢餓ニ直面セサルヘカラスト云フモ過言ニ非サルヘシ

英國人ハ到底斯ル災害ノ危險ヲ承認セサルヘシ此ノ明白ナル事實ハ英國ヲシテ他國ト全然異ナル立場ヲ採ラシメ且他ノ國ニ比シ英國ノ海軍々備制限ヲ困難ナラシムルモノナリト思考ス

他ノ重大ナル事實ハ通商路及帝國各部ヲ連絡セル海岸線ノ甚タ長大ナルコト及現在之ヲ想像スルコト難シトスルモ萬一他國ノ侵襲アル場合此等長大ナル海岸線ト交通路トヲ適宜保護スルノ必要アルコトナリ

此ノ第二ノ點ハ第一ノ點ニ比シ帝國海外領土ノ福利ニ關係スル所甚大ナリ吾人ノ立場ハ極メテ簡明ナレトモ其ノ簡明ナル丈ケ吾人ニトリ極メテ重大ナリ然レトモ吾人ハ他國ニシテ同意スルニ於テハ華府會議ニ於テ受諾セラレタル制限以上ニ海軍々備ヲ制限スルモ可ナリト思惟ス

予ハ大ナル興味ヲ以テ議長ノ陳述ニ傾聴シ之カ基礎ヲナス原則ニ大ニ共鳴スルモノナレドモ本日ハ吾人各自ノ所見ヲ披瀝スルノミニ止メ他國ノ提案討議ハ之ヲ後廻トスルヲ可ナリト信ス予ハ右ニ對シ議長カ同意セラルルコトヲ信シ且齋藤子爵モ亦同意セラルルコトヲ切望ス予ハ米國提案ヲ今暫ク考慮シタル上討議スルニ於テハ一層公平且満足ナルヘキヲ信スルヲ以テ議長提案討議ノ代リニ英國政府ノ名ニ於テ茲ニ其ノ提案ヲ提出セントス出來得ル限り簡單ニ之ヲ述フヘク詳細ニ互リテハ追テ之ヲ檢討説明スルヲ得ヘキカ故ニ今茲ニ說カス

吾人ノ主要提案左ノ如シ

(一) 現存主力艦ノ協定艦齡ヲ二十年ヨリ二十六年ニ延長シ從テ三國ハ華府ニ於テ協定セル代換表ニ基ク全權利ヲ放棄ス右ノ措置ハ當該代換表中ノ各計數ニ多少ノ伸縮性ヲ加フルコトナルヘシ

(二) 他ノ種ノ艦齡ヲ左ノ如ク定ム

イ、八吋砲巡洋艦	二十四年
ロ、驅逐艦	二十年
ハ、潛水艦	十五年

(三) 將來建造セラルヘキ主力艦ノ大キサヲ現在ノ制限排水量三萬五千噸ヨリ三萬噸以下ニ引キ下ク

(四) 主力艦ノ備砲口徑ヲ現在ノ限度十六吋ヨリ十三吋半ニ引キ下ク

(五) 航空母艦ノ排水限度ヲ二萬七千噸トセス二萬五千噸トス

(六) 航空母艦ノ備砲口徑ヲ八吋ヨリ六吋ニ引キ下ク

(七) 排水量一萬噸備砲八吋ノ巡洋艦ニ對シ五、五、三、ノ現存比率ヲ適用ス

三國各自所要ノ右大型巡洋艦ノ隻數ハ後日討議ノ題目タルコトヲ得

(八) 一萬噸巡洋艦ノ隻數決定後將來建造セラルヘキ凡テノ巡洋艦ハ排水量ヲ七千五百噸備砲ヲ六吋砲ニ制限ス

(九) 嚮導驅逐艦排水量ヲ千七百五十噸、驅逐艦排水量ヲ千四百噸ニ制限ス

(十) 驅逐艦備砲ハ五吋限度トス

(十一) 潛水艦ニ關シテハ吾人ハ我全權カ潛水艦戰時使用禁止ニ進ンデ同意ヲナスヘキ意思ヲ表明シタル華府會議以來ノ精神ヲ變改セス尤モ吾人ハ大型軍艦ニ於テ劣勢ナル諸國カ潛水艦ヲ以テ防禦上ノ有效ナル武器ト看做スコトヲ是認ス同時ニ主力艦並其ノ他ノ一層有效ナル戰鬪用艦船ノ制限ニ關スル吾人ノ提案ニシテ受諾セラルルニ於テハ潛水艦ノ大サ及恐ラクハ其ノ數ニ關シテモ或ル制限ヲ提案スルコトハ不合理ニ非サルヘシト思考ス

吾人ハ茲ニ大型潛水艦ノ噸數ヲ千六百噸、小型潛水艦ノ噸數ヲ六百噸、及各種潛水艦ノ備砲ヲ五吋以下ニ制限センコトヲ提案ス尙吾人ハ夫々各國ノ必要ニ應シ潛水艦ノ隻數ヲ制限スルノ可能ナルヤヲ討議センコトハ望マシキコトナルヘシト思考ス而シテ潛水艦ノ隻數ノ制限ハ引イテ驅逐艦ノ隻數ノ制限ヲ一層容易ナラシムヘク且右ノ諸點ニ關シテ他ノ諸國トノ間ニ協定成立セハ各締約國ノ保有スヘキ巡洋艦數ヲモ考慮シ得ヘキコトニ留意スルヲ要ス

吾人ハ機雷敷設艦、小型航空母艦、水雷艇、掃海艇、艦隊附屬補助艦船及純然タル沿岸防禦用諸艦艇ニ關シテハ未タ何等確定的提案ヲ爲サリシコトニ留意アリタシ然レトモ各種船艇ヲ包含スル廣汎ナル分類表(附屬書第四)ヲ準備シ右分類表

中ニハ各種艦艇ノ排水量及武裝ヲ制限シ以テ右等艦種ノ發達力更ニ重要ナル艦型ニ關シテ吾人カ到達スヘキ協定ヨリ生スル安泰ヲ脅威スルニ至ルナキヲ目的トスル私案ヲモ加ヘ置ケリ

最後ニ予ハ上記軍備縮小案提出ハ英國海外領土ヲ代表スル予ノ同僚ノ同意ヲ經タルモノニシテ多數ノ全權ヲ今日此處ニ列席セシメ居レル英國政府ノ名ニ於テナセルモノナルコトヲ明ニセントス

又予ノ同僚及予ハ各々全權委任狀記載ノ英帝國特定ノ部分ヲ代表スルコトヲ右委任狀ニヨリテ任命セラレ居レルモ同時ニ予等ハ凡テ英國皇帝陛下ノ代表タルコトヲ附言セントス

本會議ノ熟議ノ結果成立スヘキ條約ノ形式ニ關シ吾人ノ希望スル所ハ昨年開催セラレタル帝國會議決議及三月開催セラレタル國際聯盟理事會ニ於テナセル「サー、オースチン、チェムバレン」氏ノ聲明ニ基キ斯ル條約ハ各「ステーツ」ノ元首ノ名ニ於テ締結セラレヘキコト是ナリ而シテ英帝國ノ各部カ同條約ニ參加セルコトハ全權氏名表中ノ地理的記載事項ニヨリテ之ヲ知ルコト得ヘシ

吾人ノナセル提案ノ利益ニ關シテハ茲ニ詳細陳述スルノ要ナカルヘシ

提案ノ最初ニ掲ケタル艦齡ノ延長及將來ニ於ケル噸數並武裝ノ制限ハ各國ノ代換ノ費用ヲ大ニ減少スルコト明ナリ

各艦種軍艦ノ大キサノ制限ハ戰艦型ヲ不斷ニ増大セシメ努級艦ヨリ超努級艦ヲ建造スルニ至ラシメ且他國ノ建造セル新式軍艦ニ對抗シ又ハ之ヲ凌駕スル爲各國ヲシテ無限ニ經費ヲ膨大セシムルカ如キ海軍競争ノ再燃ヲ防止スルモノナリ既ニ述ヘシ如ク大型軍艦ニ於ケル右ノ如キ競争ハ一九二一年終止セリ小型軍艦ニ關シテ右競争ヲ終止セシムルハ實ニ吾人ノ任務ナリ

或國ニシテ假令小型軍艦ニシロ其ノ大キサヲ増大スルニ於テハ他國ニ於ケル同型軍艦ニ影響スルノミナラス其ノ攻撃ヲ受クルノ危險アル大型軍艦ノ大キサ武裝及費用ニモ影響ス

故ニ吾人ノ目的トスル所ハ廢艦ノ際ニ於ケル代換費ニ節約ヲ行ヒ且軍艦ノ大キサ及武裝ヲ一定シ以テ新艦ニ於ケル競争ノ

危險ヲ除去セントスルニ在リ

然レトモ此等ノ提案ヲ諸君ノ考慮ニ附スルニ當リ予ハ一ノ留保ヲ爲ササル可カラス

合衆國、日本國及英國ノ間ニ協定成立スル場合英帝國ハ其ノ歐羅巴ニ對スル地理的位置ノ爲日米兩國ノ感知セサル危險ヲ感スル虞アリ即チ右協定非署名國ニシテ其ノ海軍勢力ヲ擴張スルニ於テハ英國ノ安全ヲ危殆ナラシムルカ故ナリ從テ我國ノ地位ヲ安固ナラシメンカ爲ニハ右協定中ニ一國又ハ數國カ膨大ナル海軍建造案ヲ立テタル場合我國ノ海軍勢力ヲ再考スル規定ヲ設クルヲ要スヘシ此ノ點ハ「ギブソン」氏カ開會ノ辭ノ中ニ述ヘラレタル所ト符合スルト思考ス然レトモ此危險ハ若シ歐洲諸國カ右協定ニ參加スルニ於テハ疑モナク大イニ減少スヘク是予ノ切望シテ止マサル所ナリ而シテ右諸國ノ參加ハ吾人ヲシテ更ニ充分他ノ艦種ノ隻數ノ考慮ヲナスヲ得セシムヘシ

吾人ノ計畫ノ成功スルト否トハ確固タル比率ニ基クニ非シテ寧ロ參加諸國カ其ノ要求ヲ率直ニ宣明スルコトニ基クモノナルヲ以テ予ハ佛、伊兩國ノ參加ヲ容易ナラシムルヤウ吾人ノ計畫ヲ立ツル爲努力シ來レリ

予ハ單ニ事實ヲ簡潔ニ述ヘ且外交的辭令ヲ用フルコト少クレハ少キタケ吾人相互ノ了解ト協調ノ機會アルヲ思ヒ極メテ簡單ニ吾人ノ所見ヲ述ヘタリ

予ノ陳述ハ極メテ率直ナルモ予ハ英國民及茲ニ列席スル其ノ代表者カ軍縮ニ關シ何等カノ協定ヲ作成スルノ必要ヲ痛感シ居レルノミナラス予ノ陳述カ本會議並ニ世界ニ満足ナル結果ヲ與ヘン事ヲ熱望シテ止マサルモノナルコトヲ諸君ニ確言スルコトヲ得ルモノナリ

齋藤子爵聲明

世界ノ平和ト人類ノ福利トヲ増進スルコトヲ目的トスル手段及努力ニ對シテハ其ノ形式ノ如何ヲ問ハス之ニ滿腔ノ支持ヲ與フルハ日本政府ノ傳統的政策ナリ

劃期的條約ヲ作成シタル一九二一年ノ華府會議ニ日本政府カ欣然參加シタル所以ノモノハ全ク此ノ根本政策ニ遵由

セルカ爲ナリ日本政府カ一般の軍備縮小ヲ目的トスル國際聯盟殊ニ過般此會議室ニ開催セラレタル軍縮準備委員會ノ努力ニ最初ヨリ自由且忠實ニ協力シ來リタルハ實ニ右ノ精神ニ基クモノナリ

日本政府ハ再ヒ此ノ精神ニ忠ニシテ本會議開催ノ提議ニ迅速且衷心同意セリ日本政府及國民ハ斯ル光榮アル狀勢ノ下ニ開始セラレタル會議カ凡テノ國ニ公平ニシテ且満足ナル協定ヲ作成スルニ至ランコトヲ衷心希望ス日本代表ハ若シ各國各自ノ特有ナル事情及要求カ適當ニ且同情ヲ以テ考慮セラレ關係各國カ隔意ナク誠實ニ協力シ互ニ謙讓ノ精神ニヨリテ指導セラルルニ於テハ會議ノ目的達成ヲ妨害スルモノ何物モナカルヘキヲ信ス

只今拜聽ノ光榮ヲ有セシ演說ニ於テ英米兩全權ハ補助艦問題ニ關スル見解ヲ表明セラレタリ吾人ハ既ニ爲サレ又ハ將來爲サルヘキ提案ニ對シ慎重ニシテ同情アル考慮ヲ拂フノ用意アルヲ宣言スルト共ニ茲ニ本問題ニ關スル吾人ノ見解ノ概要ヲ陳述セントス

補助艦使用ノ目的ハ種々雜多ニシテ其ノ數及價值ハ各國特有ノ事情ニヨリテ異ル然レトモ各國ノ補助艦ニ關スル要求ハ現實ニ其ノ國ノ所有スル勢力又ハ公認セラレタル計畫ニ反映スルモノト云フコトヲ得ヘシ故ニ補助艦問題討議ニ際シテハ此點ニ關スル各國ノ現狀ニ充分ノ考慮ヲ加フルノ要アルヘシ

軍備制限協定ノ最重要ナル目的ハ軍備ノ擴張ヲ防遏スルト共ニ協定參加國ノ安全ヲ危殆ナラシメサルニアリ從テ國家ノ安全カ依據スル基礎ヲ震倒セシムルカ如キ現存狀態ヨリノ急激ナル變化ハ嚴ニ之ヲ避ケサル可カラス

日本全權ハ茲ニ大要次ノ如キ實際的制限案ヲ提出セントス

- (注意) 華府海軍條約規定ノ主力艦及航空母艦ハ本提案ノ外トス
- (一) 各國ハ今後其ノ海軍勢力増加ノ目的ヲ以テ新ニ造船計畫ヲ採用シ又ハ軍艦ヲ取得セサルヘキコト
- (二) 前號ニ掲クル「海軍勢力」トハ(イ) 各國ノ保有スル既成艦艇中現ニ第四號ノ規定ニ依リ代換艦齡ニ滿タサルモノノ噸數及(ロ) 各國ノ建造中ノ艦艇ノ計畫噸數ヲ基礎トシテ協定スヘキ水上補助艦ノ艦種ニ屬スル合計噸數及潛水

艦ノ艦種ニ屬スル合計噸數ヲ云フ

各國ニ許容セラルヘキ海軍勢力協定ニ當リテハ(イ) 各國ノ既定計畫中建造未着手艦艇ノ計畫噸數及(ロ) 既定計畫實施中ニ代換艦齡ヲ經過スヘキ噸數ヲモ考量スヘキコト

- (三) 左ニ掲クル艦船ハ前二號ノ適用ヨリ之ヲ解除スルコト

(イ) 排水量七百噸ヲ超過セサル艦艇

(ロ) 六吋砲以下ノ砲四門以内(三吋砲以下ノ砲ハ之ヲ計上セス)ノ武裝ヲ有スル水上艦船但シ速力ハ二十節ヲ超ユヘカラス

(ハ) 一萬噸未滿ノ航空母艦

- (四) 第二號ニ依リ協定セラレタル海軍勢力ヲ超過セサル範圍内ニ於テ各國ハ左記艦齡ヲ經過シタル艦艇又ハ亡失セル艦艇ニ付各艦種別ニ從ヒ新艦艇ノ建造又ハ取得ニヨリ之ヲ代換スルコトヲ得

水上補助艦

三千噸以上

一六年

三千噸未滿

一二年

潛水艦

一二年

制規ノ代換艦齡ハ前項ニ規定スルカ如シト雖モ現ニ特殊ノ調節ヲ要スルカ如キ狀況ニ對シテハ除外例ヲ認ムルヲ妨ケス

- (五) 第一號及第二號ニ依リ協定シタル海軍勢力ヲ超過シタル噸數及第四號ノ規定ニ依リ代換セラレタル艦艇ハ別ニ協定セラルヘキ方法ニヨリ之ヲ處分スルコト

- (六) 代換建造ニ方リテハ急激ナル勢力ノ變化ヲ避クル爲メ及毎年度ノ建艦率ヲ均齊ナラシムル爲適當ノ規定ヲ設クル

コト

議長―各國主席全權ハ幹部會組織ノ目的ヲ以テ明朝十一時第四號室ヘ參集スヘク全權委任狀審査委員會ハ午後三時參集スヘシ事務總長ハ總書記局員ヲ任命スヘク又次期總會ノ時期ヲ通知ス可シ
他ニ質問ナキニ於テハ本日ハ之ヲ以テ散會トス

午後四時十分會議散會

第二、第二回總會

一九二七年七月十四日（木曜日）於壽府

出席者

米國側

海軍少將
ヒュリー、キブツン
ヒラリー、ビー、ジョーンズ

同
エイ、テイ、ロング

同
エフ、エイチ、スコフィールド
エイ、ダブリュ、ダレス

英國側

英本國

子爵
ダブリュ、シイ、ブリヂマン
セシル、オブ、チェルウッド

海軍中將
サー、エフ、エル、フィールド
イー、ラボアント

加奈陀

ダブリュ、エイ、リッデル博士

濠太利
新西蘭

海軍元帥伯爵
デ、エリコー

海軍少將
エイ、エフ、ビール
デ、エイ、エス、スミット

エム、マクホワイト

ダブリュ、シイ、ブリヂマン

齋藤實

日本側

海軍大將子爵
子爵
石井菊次郎

佐分利貞男

小林 躋造

原 敢二郎

ヒュリー、アール、ウィルソン

アール、エイチ、キャムベル

佐藤 尙武

ハワード、アール、ハストン

總書記局側

佛蘭西情報部員

伯爵
クラウズェル

海軍中佐
ドルーズ

ジャン、ボール、ボンクール

伊太利非公式傍聴者

海軍大佐

ドン、フ、ブリジオ、ルスボリ

海軍中佐

ドン、ウムベルト、クジャ、デイ
サンタ、オルソラ

愛蘭自由國及故「ケヴィン、オヒギンズ」氏家族ニ對スル弔意

議長―諸君、今日議事ニ入ルニ先チ愛蘭自由國代表ノ一人「ケヴィン、オヒギンズ」氏ノ暗殺セラレタルコトヲ述フルハ予ノ悲シキ義務ナリ右ノ慘事ニ對シ吾人ノ恐怖ヲ表ハシ愛蘭自由國カ其ノ最有爲ナル市民ヲ失ヒタルコトニ對シ同情ヲ表ハスハ本會議ノ衷情ヲ表明スルモノナリト信ス予ハ英國側及日本側ノ同意ヲ得テ愛蘭代表ニ對シ吾人ノ表弔ノ「メッセージ」ヲ自由國政府ニ傳達セラレンコトヲ希望ス

齋藤子爵―議長並諸君、予ハ予自身及日本側一同カ只今議長ニ依リテ表明セラレタル雄辯ニシテ且感動的ナル弔意ニ同感ナルコトヲ述フルヲ悲シム恐ラク日本及愛蘭ハ未タ嘗テ斯ノ如ク同情ノ念ヲ共ニセルコトナカルヘシ愛蘭ノ福祉ノ爲ニ殉國ノ血ヲ流セシ人ニ對スル此ノ表弔程兩國ヲシテ同感接近セシメシ機會ハ嘗テアラサリシナリ

「ブリヂマン」氏―議長並諸君、英國側ハ既ニ愛蘭自由國及故「オヒギンズ」氏家族ニ弔意ヲ表スルコトヲ決議セリ然レトモ茲ニ列席セララル諸氏ト共同シテ弔意ヲ表スルコトヲ得ルハ吾人ノ欣幸トスル所ナリ吾人ハ今ヤ識見人格共ニ我等ノ賞讃措ク能ハサリシ畏敬スヘキ同僚ヲ失ヘリ吾人ハ日米兩國側カ此ノ大損失ニ對シ吾人ト感テ同シウセララルヲ深ク感謝スルモノナリ

「マクホワイト」氏―議長並諸君、予ハ愛蘭自由國政府ヲ代表シ愛蘭カ其ノ最モ偉大ナル政治家ニシテ同時ニ最モ卓越セル市民「オヒギンズ」氏ノ暗殺ニ依リテ蒙レル悲痛ナル損失ニ對シ本會議代表諸氏カ同情ノ意ヲ寄セラレタルヲ深ク感謝スルモノナリ氏ノ不慮ノ死ハ愛蘭全國民ヲシテ哀悼ノ極ニ達セシメタリ

「オヒギンズ」氏ハ年齡僅ニ三十五歳ナリシカ四年間司法大臣ノ職ニ在リ其ノ間氏ノ成就セル事績ハ實ニ驚嘆スヘキモノアリ事實氏ハ渾沌ヨリ秩序ヲ樹立セルモノト云フ可ク今日ニ於テハ司法事務ハ愛蘭全國ニ互リテ何等ノ威嚇又ハ腐敗ナクシテ行ハルルニ至レリ氏ノ業績ハ之ノミニ止マラス愛蘭議會ノ制定セル進歩的且社會的立法ニハ凡テ氏ノ足跡殘リ居レリ氏ハ果敢ナル勇氣ト確固タル決心トヲ有シ而モ尙愛ス可キ心ノ所有者ナリキ氏ハ幼キ子供等ヲ愛シ又子供等ニ愛セラレ八日前壽府ヲ去ルニ際シ氏カ爲シタル最後ノ行爲ハ氏自身及友人等ノ子供ニ玩具ヲ購入セルコトナリ氏ハ雄々シク生キ又雄々シク死セルモノナリ

愛蘭ノ一大支柱ハ無殘ニモ打チ倒サレタリ春秋ニ富ミ且前途アル生涯ハ不慮ノ終末ヲ告ケタリ然レトモ愛蘭ノ社會的政治的發達ノ爲氏ノ就セル偉大ナル事業ハ愛蘭人ノ感謝ノ胸ニ永久ノ紀念塔トシテ殘サルヘシ

愛蘭代表ニトリテハ「オヒギンズ」氏ノ死ハ個人的哀情ノ極ナルカ諸君ノ御同情ノ表明ニ依リテ更ニ益々感動深キモノアリ吾人ハ諸君ノ懇篤ナル弔意ヲ必ス愛蘭自由國政府ニ傳達スルコトヲ怠ラサルヘシ

議事及經過報告

議長―諸君、第二回總會開會ニ際シ予ハ議長トシテ本總會開催ノ爲過去三週間ニ互リテ吾人ノ成就セル業績及經過ヲ簡單ニ報告セントス予ハ未詳決諸問題ノ重大性ヲ輕視スルモノニ非ス茲ニ其ノ進展ヲ報告シ得ルハ予ノ欣快トスル所ナリ専門委員會ハ其ノ九回ノ會議ニ於テ驅逐艦、潛水艦、艦型及艦種ノ定義、並ニ戦闘用價值少キ制限外艦艇ノ特性ニ關スル重要ナル問題ニ付暫定の勸告ヲナスヲ得タリ又總會ノ決議ニ基キ本會議ノ事業ヲ指導スヘキ幹部會ハ専門委員會ノ報告審議ノ爲二回開會シ現ニ本會議ノ最大難問タル巡洋艦種制限ノ方式及手段ヲ考慮中ナリ他方全權委任狀審查委員會ハ諸代表ノ全權ヲ承認シ其ノ報告書ヲ提出シタリ

各國代表ハ水上補助艦制限ノ方法ニ關シ特ニ努力シ來レル各種非公式會合ノ事業指導ノ目的ヲ以テ毎日協議ヲナシ居レリ又各艦種噸數制限ニ關スル本會議ノ議決ハ兎モ角トシ新海軍制限條約成立ノ場合其ノ一部ヲナスヘキ條項作成ノ目的ヲ以

テ各國代表法律顧問ハ數回非公式會合ヲナシタリ

吾人ハ今ヤ巡洋艦制限ニ關シ相互ニ満足ナル基礎ヲ發見スヘク急速ナル進步ヲナスノ地位ニ在リ予ハ吾人ハ友好及率直ノ精神ヲ以テ引キ續キ本問題ヲ考慮シ且協定ノ基礎ヲ發見スル爲凡ユル手段ヲ執ルヘキコトヲ茲ニ陳述セントス而シテ此點ニ關シテハ他ノ全權ニ於テモ又異議ナカルヘキヲ確信ス各全權ハ總會開催ニ依リテ吾人ノ事業ヲ促進シ得ヘシト信スル場合ニ於テハ何時ニテモ總會ノ召集ヲ請求スルノ權利及義務ヲ有ス「ブリッジマン」氏ハ本總會ニ意見ヲ開陳シタキ旨申出テラレ吾人ハ之ニ同意シタルカ故ニ予ハ茲ニ「ブリッジマン」氏ノ陳述ヲ求ムルヲ欣快トス

「ブリッジマン」氏予カ本總會議開催ヲ提議シタル所以ハ或ル方面ニ於テ英國提案ニ對スル甚敷キ誤解存在シ爲ニ會議ノ空氣險惡トナリタリト思惟スルカ爲ナリ右方面ニ於テハ各國代表者間ニ重大ナル惡感情瀰漫シ且協定作成ヲ困難ナラシムヘキ狹量ノ空氣漂ヒ居レリ此點ニ關シ予ハ吾人ノ現ニ取扱ヒツツアルカ如キ複雜ナル問題ニ於テハ各自見解ノ相違アルハ寧ロ當然ナルノミナラス淡白ニシテ自由ヲ愛好スル人々ノ會議ニ於テハ斯ル異見ハ寧ロ不明率直ナル言辭ヲ以テ表明セラハルヘキコトヲ陳述スルニ止ム然レトモ吾人ハ相互ノ意見ニ對スル尊重心ヲ失ヒシコトナク又此等ノ意見ヲ調和セシメムトスル熱望ヲ失ヒシコトナシ苟ンヤ三國間ニ於テ過去ニ存シ又將來存スヘキ友好關係ヲ危殆ナラシムヘキ事態發生セリト云フコト能ハサルナリ

予ハ或種ノ困難ハ本會議參加國中其ノ希望及利益ノ關係上本會議ノ失敗ヲ歡迎スルモノアルニ依ルカ如ク思惟ス如何ナル些事ト雖モ誤解ノ釀生ニ利用セラレ捏造の計數揭示論述セラレ又衝突及惡感情ヲ生セシメンカ爲メ不公平ナル情報ハ些細ナリト雖モ各種ノ文書中ヨリ抽出利用セラレ居レリ

予ハ假令如何ニ刺戟のナルニセヨ斯ル言辭ニ依リテ本會議出席者カ動カサレ居レリトハ思惟セス吾人ハ常ニ友好精神ノ中ニ問題ノ解決ヲ求メ居タルカ其ノ解決ヲ得ルコトニ絶望スヘキ何等ノ理由ナキコトヲ茲ニ公言ス

予ハ吾人カ最初此地ニ來會セシ際吾人ノ中何人モ三國ノ要求全然異ルカ故ニ三國協定締結困難ナルヲ了知セルモノナカリ

シト思惟ス予ハ英國提案提出セラルルヤ其ノ冷然ト迎ヘラレタルヲ見テ痛ク失望シタリ

吾人ハ若シ各自ニシテ腹臆ナク其ノ要求ヲ述ヘ之ニ關シ少シク討議スルニ於テハ或ル種ノ數學的又ハ論理的方式ヲ案出シ以テ三國特殊ノ要求ヲ調和セシメントスルヨリモ一層容易ニ一致點ヲ見出スヘキモノナリト考ヘ居タリ

吾人ハ本會議ヲ繼續スルコト既ニ三週間ニ及ヘリ而シテ先ニ議長説明ノ如ク専門委員ハ各國ノ立場ヲ考慮シ驅逐艦、潛水艦及其ノ他非戦闘用艦艇ニ關スル協定作成上有力ナル指針タルヘキ重要ナル或ル種ノ假提案ヲ爲シタリ予ハ若シ巡洋艦ニ關スル協定作成不可能ナルニ於テハ他ノ艦種ニ付キ之ヲ作成スルヲ可トスト信ス

然レトモ巡洋艦問題ニ付テハ何等實質的の進步成就セラレ居ラサルナリ

第一回會議後議論ノ焦點タルヘシト豫想セラレタル主力艦ノ問題ニ付キ討議ヲナスノ協定ニ達シタルハ幸先良キコトニシテ右ハ吾人所期ノ程度ニ達セサルモ尙此種艦艇ノ制限ニ實質上一步ヲ進メタルモノト云フヘシ

此ノ協定モ英國ノ海上優越慾ニ對スル種々惡意アル議論ヲ反駁抹殺シタル後初メテ達セラレタルモノナリ予ハ本總會開催ニ同意セラレシ他全權ニ謝意ヲ述ヘ且巡洋艦問題ニ緒マル困難カ本總會ニ於テ表明セラルル英國及他國ノ明確ナル聲明ニ依リテ除去セラルルニ至ランコトヲ希望シテ止マサルナリ

本會議ノ招請ヲ含ム二月十日附覺書ニ於テ「クーリッヂ」大統領ハ米國政府ノ方針ニ關シテ「軍備ノ實際的の制限ヲ將來セントスル凡ユル努力ニ協力スヘキ政策ナリ」ト述ヘラレタリ故ニ吾人ハ成功ノ希望ヲ以テ經濟的の負擔ヲ大ニ輕減シ且攻撃力ノ標準低下ニ明確ナル進步ヲ劃スヘキ制限案ヲ提出シタルナリ

吾人カ軍備制限案ヲ起草セル時一而シテ制限案ハ「クーリッヂ」大統領ノ本會議招請狀發送前既ニ慎重考慮セラレ居タルモノニシテ右招請狀ニ先チ事實上現文ノ形ニテ政府ニ提出セラレタルモノナリ一吾人カ直面セサルヘカラスト感シタル狀勢ハ何ナリシヤ當時吾人ノ考慮セシ主要ナル點二アリ第一ノ點ハ一九三一年ニ於テ華府條約カ繼續セラルトスレハ既ニ吾人カ不必要ト信シ且軍縮ノ眞ノ精神ニ矛盾スル大サ及經費ノ主力艦ノ建造ヲ開始セサル可カラサルニ至ルコトナリ此點ニ

付予ハ茲ニ詳細ニ論スル要ナカルヘシ第二ノ而シテ更ニ重要ナル點ハ華府ニ於テ將來ノ巡洋艦建造ノ一萬噸限度ヲ採用シタル爲各國ノ維持スヘキ此等有力ナル軍艦ノ隻數ニ何等ノ制限ナキ限リ英國ハ此等ノ有力ニシテ多額ノ經費ヲ要スル軍艦建造ニ關シ停止スル所ヲ知ラサル計畫ヲ立ツルニ至リタルコトナリ

予ハ茲ニ詳細ニ英國提案ヲ繰リ返ヘシ説明スルノ要無キモ吾人ノ主眼トスル所ハ各別個ノ艦種ノ單艦ノ最大噸數及武裝ヲ限定シテ攻撃の軍艦競争ヲ禁遏セントスルニ在ルコトヲ強調セントス此等最大限度ハ現在ノモノヨリ高カルヘカラス又多クノ場合ニ於テ遙ニ低カルヘキモノナリ一九二七年四月五日軍縮準備委員會ニ於テ貴下ハ此問題ニ付キ下ノ如ク報告セラレタリ

「吾人ハ各艦種ノ最大噸數及備砲ノ最大口徑ヲ規定セサルヘカラス蓋シ全世界カ公然看識シ得サル軍艦ノ特性ヲ取扱フコトニ依リテ問題ヲ錯綜セシムルヨリモ寧ロ實在のニシテ看識シ得ヘキ特性ヲ取扱フニ於テハ過誤ナカルヘキヲ確信スレハナリ」

是誠ニ正當ナリ總噸數ハ宛カモ「バイ」ノ如シ其ノ良否ハ其ノ中ニ包藏スルモノニ依リテ定マル蓋シ既知ノ大サ及ヒ隻數ノ軍艦ヲ加乘シテ總噸數ヲ定ムルニ於テハ良好ナル結果ヲ生ス可キモ之ニ反シ總噸數トハ其ノ範圍内ニ於テ何國モ他國ニ知ラレス任意ニ種々ノ大キサノ軍艦ヲ作り得ルモノトセハ予ハ之ヲ受諾シ得ヘキ提案ト思惟セス

予カ上ニ引用セル貴下ノ見解ヨリ判斷スレハ此問題ニ關シ予ハ貴下ト同一意見ヲ有スルモノナリ各艦型ノ最大噸數ヲ協定スルニ非サレハ建造競争ヲ防止スルノ方法ナク單ニ總噸數又ハ比率ヲ定ムルモ各艦種ノ單艦ノ限度ヲ定ムルニ非レハ右ハ何等ノ價值ナシ本會議ノ目的ハ今日代表セラルル三國以外ノ國家ヲ包含シ國際聯盟カ一般の軍縮協定ヲ作成スル爲先ツ海軍制限ヲナサントスルニ存スルコトヲ銘記セサルヘカラス斯ノ如キ制限ナクシテハ何國モ如何ナル戰鬪力ニ對シテ競争スヘキカヲ知ルコト能ハス蓋シ一國ハ其ノ總噸數以内ニテ大型軍艦ヲ建造スルヲ得ヘク若シ其ノ隻數多キニ於テハ攻撃の性質ヲ帶フルニ至ルヘク從テ他國モ又之ニ倣フノ止ムヲ得サルニ至ルヘケレハナリ

若シ英國ノ提案ニシテ採用セラルルニ於テハ各種ノ攻撃の勢力ハ將來決定のニ縮小セラルルコトナルヘシ各主力艦ノ最初ニ要スル建造費ヲ約百萬「ポンド」、巡洋艦建造費ヲ五十萬「ポンド」以上減少シ得ヘク且維持費モ年々數千「ポンド」節約シ得ヘシ而シテ他ノ小艦艇ニ關シテモ同様ノコトヲ云ヒ得可シ

予ハ諸君カ英國提案中ノ最低見積リノ最大限度ニ同意セラレムコトヲ希望ス予ハ今小型艦艇ニ關シテ論シツツアリ若シ諸君ニシテ同意セラレサルニ於テハ吾人ノ到達シ得ル唯一ノ協定ハ現在ノ攻撃の勢力ヲ低下セシムルモノニ非スシテ寧ロ之ヲ増加セシムルモノタルヘシ

扱テ是ヨリ予ハ特ニ巡洋艦問題ヲ論スヘシ議長ハ開會ノ辭ニ於テ「各國海軍ハ國家ノ安全ト兩立スル範圍内ニ於テ最低限度タルヘシ」ト論セラレ更ニ「吾人ハ吾人ノ正當ナル必要見地ヨリ噸數問題ヲ充分且隔意ナク討議スルノ用意アリ」ト述ヘラレタリ吾人ハ全然是ニ同感ニシテ各國ハ其ノ正當ナル必要ヲ各自陳述シ得ルモノナリト解ス吾人ハ從來我國ノ安全ト兩立スヘキ軍備ニ關シ熟考シ來レリ英本國ハ如何ナル時ニ於テモ纔ニ數週ノ糧食供給ヲ有スルニ過キサレカ故ニ其ノ存立ハ海洋ノ自由交通ニ依據スルモノナルコト吾人ノ既ニ述ヘ又述ヘントスル所ナリ又糧食、原料ノ輸送及帝國內各部通商ハ英帝國各部ヲ分テル海洋上ニ於ケル交通ノ安全ニ依據スルカ故ニ吾人ハ其ノ距離ノ遠隔ノ爲他ノ國以上ニ海上ニ於ケル障害無キ交通ニ賴ヨラサルヘカラス予ハ「ジェリコー」卿カ戰時我海軍ヲ指揮セル無比ノ經驗ニ基キ此ノ危險ヲ確證セラレムコトヲ希望ス吾人ハ常ニ本會議ニ於テ海軍勢力ニ關スル吾人ノ要求ノ正當ナルヲ立證スル用意アリ而シテ吾人ハ既ニ此ノ點ニ關シ他全權ニ對シ隔意ナキ陳述ヲナシタリ吾人ハ他ノ諸國ノ要求ニ關シテ主張セルコトナシ只吾人ノ明カニセルハ吾人ニトリテハ艦ノ大キサヨリモ隻數カ一層重要ナル點ニアリ吾人ハ最初ノ提案ニ於テ主力艦ニ關スル華府條約ノ比率ヲ八吋砲搭載巡洋艦ニ適用スルコトニ同意スヘキ旨ヲ提議セリ而シテ吾人ハ右比率協定ニ達スル迄ハ此等巡洋艦ノ建造ニ着手セサルヘク又右比率協定成立後ニ於テハ之カ建造ヲ中止スルノ用意ヲ有スルモノナリ小型巡洋艦ニ付テハ吾人ハ英米ノ均勢ニ關スル合衆國ノ要求及自國ノ安全ニ必要ナル隻數ヲ主張スル日本ノ要求ニ反對スルモノニ非サレトモ吾人ハ之等ノ

巡洋艦ヲシテ攻撃的武器タラシメス單ニ防禦的ナラシムル爲其ノ大サヲ制限シ其ノ備砲ヲ六時タラシメムコトヲ希望ス之ニ對シ吾人ハ總噸數制限案受諾方ヲ要求セラレタリ吾人ハ若シ他ノ諸國カ如何ニ此總噸數ヲ使用スヘキカヲ了知スルニ於テハ素ヨリ之ニ反對スルモノニ非ス然レトモ吾人ハ嘗テ米國カ八吋砲搭載一萬噸級大型巡洋艦二十五隻及多數ノ八吋砲搭載小型巡洋艦ヲ要スルトノコトヲ知り喫驚セリ同時ニ吾人ハ先ツ巡洋艦ニ對シ四十萬噸ノ總噸數ヲ承認セサルヘカラサルコトヲ要求セラレタリ此意味タルヤ要スルニ吾人ハ他ノ諸國ノ巡洋艦隊ノ性質ヲスラ知ルコトナクシテ英國ノ安全ニ必要ナル海軍力ヲ代表スル獨斷的數字ニ同意スヘシトノ意ナルヘシ

吾人ハ安全ト兩立スヘキ範圍内ニ於テ最低總噸數ヲ定ムルコトヲ希望ス然レトモ英國ノ目的ヨリ見レハ軍艦ノ大サヨリモ其ノ隻數ヲ重要ナリトナスヲ以テ他ノ諸國カ大型巡洋艦ヲ要求スルコト多クハ多キタケ吾人ニ取リテハ最低總噸數ヲ協定スルコト困難トナルヘシ從テ他ノ諸國所要ノ大型巡洋艦隻數ヲ知ラサル以上吾人ニ最低總噸數ノ設定ヲ要求スルハ妥當ナラサルヘシ八吋砲大型巡洋艦ハ其ノ攻撃力ニ於テハ六吋砲巡洋艦ニ比シ遙ニ優リ少クトモ二、五對一ノ優勢ヲ有ス故ニ斯ル提案ハ吾人ニシテ帝國内通商ニ須要ナリト思惟スル巡洋艦隻數ヲ拋棄セサル限リ吾人ヲ均勢ノ地位ニ置クモノニ非スシテ寧ロ攻勢力ニ於テ決定の劣勢ノ地位ニ置クモノナリ如何ナル國モ生存權及安全生存權ヲ拋棄スヘク要求セラルルコトアリ得ヘカラサルナリ

次ニ軍備縮小ノ見地ヨリ見ルニ斯ル提案ハ如何、右ハ現在以上ニ世界海軍ノ攻撃力ヲ激増スルコトナルヘク制限ノ爲ニ開カレシ會議ノ結果トシテハ奇怪ナルモノトナルヘシ

吾人ノ困難トスル所ハ米國トノ均勢ニ非ス吾人ハ之ニ何等反對セルコトナシ又吾人ハ日本カ保有スヘキ比率ニ反對スルモノニ非ス吾人ノ重要視スルハ只自國ノ安全及大戰中吾人ノ營メタル苦キ經驗即チ敵國ノ攻撃ニ對シ我カ海上交通ヲ將來ニ確保スルニ足ルヘキ海軍力ノ點ニ在リ

若シ吾人ノ提案ニシテ採用セラレンカ三大海軍國ハ軍艦ノ戰鬪力増進ヲ制限シ三國間ニ於テ建艦競争ヲ不可能ナラシムル

ノ好箇ノ範例ヲ世界ニ垂レ各國ノ納稅者ヲシテ將來數百萬「ポンド」ノ負擔ヲ輕減セシムルニ至ルヘシ

吾人ハ海軍力優越ノ傲慢ナル希望ヲ有シ米國ト均勢ニ置カルルヲ拒絕シタリトノ非難ヲ受ケタリ斯ル批難ハ既ニ正式ニ反駁セラレタリ「各國ハ其ノ安全ト兩立スル範圍内ニ於テ最低海軍力ヲ保有スヘシ」トノ主義ハ議長ニ依リテ述ヘラレタルカ吾人亦欣然之ヲ受諾セリ吾人ハ米國カ其ノ安全ニ充分ナル隻數ノ巡洋艦ヲ建造スルノ權利ヲ否定セス又吾人自身カ有スル同一權利ヲ放棄スルモノニ非ス吾人ノ必要以上ノ建造ヲ爲ササルハ正シク吾人ノ利益ナリ

吾人ハ或方面ニ於テ非常ナル誤解ヲ受ケタリ然レトモ本會議ニシテ予カ率直ニ陳述セル英國ノ立場ヲ了承スルニ於テハ海軍制限達成ノ爲英國カ他ノ諸國ノ要求ニ副ハントシテ絶大ナル努力ヲナシタルコトモ亦必スヤ承認セラルルニ至ルヘシ吾人ハ何レノ國ニモ優リテ其ノ要求ト理由トヲ率直ニ述ヘタリ吾人ハ今後提出セラルヘキ他ノ提案ニシテ本問題ヲ公平ニ解決スル見込アルモノハ之ヲ考慮スル用意アリ從テ巡洋艦ニ關スル吾人ノ提案ニシテ最早進捗ヲ見ル事不可能ナルニ於テハ吾人ハ凡テ協定作成ヲ最希望スルカ故ニ欣然他ノ提案ヲ考慮スヘシ過日本會議ノ協定トシテ具體化スルコトヲ得ヘキ一定ノ建造計劃ニ付協定スルコト可能ナリヤヲ調査スルノ一案提起セラレタリ右ハ各國建造計劃ノ最大限ニシテ且最大單艦噸數ヲ制限スルモノタルヘシ右ハ華府協定カ改訂セラルル時迄各國カ建造シ得ヘキ最大限度及各種艦艇ノ特性ヲ判然各國及世界ニ知ラシムルヲ得ヘキモノタルヘク又華府ニ於テ採用セラレタル案ニ最モ近似セル制限方式ニシテ又各國カ隔意ナク其ノ要求ヲ述フルニ於テハ協定シ得ヘシトノ吾人當初ノ案ニ酷似セリ予ハ右ノ案カ豫備的審査ノ結果大イニ一般ノ同意ヲ得タルヲ欣快トス予ハ次回總會前此ノ難問題カ右ノ案ニ依リテ解決ヲ得ンコトヲ希望ス吾人ハ此目的ノ爲ニ最上ノ努力ヲナスヘク予ハ他ノ全權モ又同様ナル可キヲ確信スルモノナリ

海軍元帥伯爵「ヂェリコー」氏—議長並諸君

巡洋艦問題解決ニ關スル困難ノ一ハ其ノ隻數ノ限定ヲ要求スル英帝國代表ノ提案ナリ予ハ海軍軍人トシテノ予ノ經驗、特ニ大戰中先ツ艦隊司令長官トシテ次ニ軍令部長トシテ負ヒタル予ノ責任上ノ立場ヨリ隻數問題ニ關スル予ノ見解ヲ茲ニ開

陳スルヲ許サレシコトヲ求ム

吾人ノ隻數問題ニ關スル主張ハ實ニ保護ヲ要スル帝國海洋交通ノ多數ニシテ且長大ナルコト及之ニ伴フ貿易額ノ巨額ナルニ基ク而シテ貿易品ノ大部分ハ食糧品ナルカ故ニ英本國民ノ日常生活ニ絶對的必要ナルモノナリ殘餘ノ大部分ハ英本國民及海外領土民ノ經濟的福祉ニ必要ナルモノナリ

英國船カ多數ニ航行スル主要交通線ノ長サハ約八萬哩ニシテ試ミニ千九百二十六年四月一日ヲトリテ見ルニ同日現實ニ此等交通線上ニアリ又ハ其ノ終點附近ニアリ且諸港灣ニ近ツキツツアリシ三千噸以上ノ英國船ハ實ニ九百五十萬噸ニ達シ居レリ

此等ノ交通線ヲ細分シ通商保護艦ノ行動範圍ナリト認メラルル區域ニ分チ考フレハ一萬三千哩ニ互ル北部大西洋ニ於テハ三百萬噸、六千三百哩ニ互ル南部大西洋ニ於テハ一百二十八萬噸、二萬哩ニ互ル紅海、印度洋、「ベンガル」灣ニ於テハ一百十四萬七千噸、二萬六千哩ニ互ル太平洋ニ於テハ六十四萬二千噸及一千一百哩ニ互ル地中海ニ於テハ六十萬七千噸ノ英國船舶アリ其ノ他各交通線ノ終點ニ近ツキツツアル船舶ノ噸數ヲ考慮セハ總計九百五十萬噸ニ達ス

或場合ニ於テ或ル區域内ニ於ケル船舶カ敵艦ノ妨害ヲ被ラサルコトアリ得ヘシ然レトモ大戰中獨逸軍艦「ヴォルフ」及「ゼー、アドレル」カ獨逸港灣ヨリ數千哩隔リタル太平洋、印度洋及其ノ他ノ海ニ出沒行動シタルヲ思ヘハ帝國交通線ノ大半カ危險ニ曝サルルモノト看做ササルヲ得ス

英國カ要求スル巡洋艦數ハ餘リニ多ク果シテ斯ル多數ノ隻數ヲ必要トスルモノナリヤノ疑問他ノ諸國ニ依リテ表示セラルルヤモ計ラレス此點ニ付テハ議長カソノ開會ノ辭中ニ於テ各國海軍ハ國家ノ安全ト兩立スル範圍ニ於テ最少限度ニ止ルヘキヲ述ヘラレタルコト及米國代表ハ英國ノ正當ノ必要ニ照シ充分且隔意ナク噸數問題ヲ討議スルノ意アル事ヲ記憶セラルルナラン各國各自其ノ安全ニ必要ナリトスルノ程度ヲ判斷セサル可カラサル事ハ明白ナルコトニシテ此事實ハ既ニ予カ引用セシ米國全權ノ言葉ニ於テモ認メラレ居レリ此點ニ付テハ英帝國ハ屢述セシ如ク遠ク隔絕セル海外領土ヲ有シ且英本國

民ハ其ノ食糧ヲ海上交通ニ求メサル可カラサルヲ以テ世界ノ他ノ諸國ト全然異レル立場ニ在リ

今日英國ノ要求スル巡洋艦數ハ約七十隻トセラレタリ而シテ右算定ノ基礎ハ下ノ如シ即チ艦隊ニ於テハ戰開艦三隻ニ對シ巡洋艦五隻ヲ必要トスルコト一般ニ認メラレタル原則ナリ英國艦隊ハ十五隻ノ主力艦ヲ有スルカ故ニ之ニ必要ナル巡洋艦ハ二十五隻タルヘク殘餘ノ四十五隻ハ直接通商保護ニ使用セラル此等ノ内十二隻ハ常ニ修繕又ハ燃料積込ヲナシ居レルモノト豫期セサルヘカラス從テ九萬哩ニ互ル通商路ニ對シテハ巡洋艦一隻ノ割宛二千五百哩トナル云フマテモナク巡洋艦ハ航路ニ點置セラルルモノニ非スシテ集團又ハ艦隊ヲナシテ護送ノ任ニ從ヒ又ハ作戰根據地其ノ他ノ中心港ニ止リテ出動準備ヲナシ居レルモノナリ今英國要求巡洋艦隻數ヲ見ルニ母國及海外自治領保護ノ責任ニ鑑ミ英帝國代表カ此ノ數字ノ減少ニ同意スルコト困難ナルハ明カナリ

翻ツテ戰爭ノ經驗ニ基キ此七十隻ト云フ數字ヲ檢スルニ右ハ決シテ過當ナラサルヘシ

大戰開始當時英國ハ百十四隻ノ巡洋艦ヲ有シタリ獨逸ハ北海以外ニ於テ装甲巡洋艦二隻、輕巡洋艦六隻其ノ他ノ武裝補助艦四隻ヲ有スルニ過キサリシカ此等獨逸艦艇カ終ニ全滅セシメラルルニ至ル以前其ノ活動ニ依リテ被リシ英國商船ノ損害ハ二十二萬噸以上、聯合側三萬噸ニ達セリ又上記獨逸軍艦中装甲巡洋艦二隻、輕巡洋艦三隻ヨリ成ル「フォン、スベー」艦隊ハ開戰當時太平洋上ニ在リテ通商妨害ヲ爲スニハ好位置ニ在ラス又自ラモ敢テ之ヲ試ミサリキ此ノ強大ナル艦隊ノ存在ハ「フォーランド」島ノ海戰ニ至ル迄ノ間英國ノ巡洋艦配置ニ甚大ノ影響ヲ及ホシタリ英國ノ蒙リタル開戰當初ノ損害ハ主トシテ「エムデン」、「カールスルーエ」其ノ他三隻ノ武裝補助艦ノ活動ニ基クモノナリ戰爭後期ニ於テ三隻ノ假裝獨逸軍艦カ英國船ニ與ヘシ損害ハ二十五萬四千噸ニシテ其ノ他ノ聯合國船ニ與ヘシ損害ハ三萬九千噸ニ達セリ斯ノ如キ情勢ノ下ニ於テ百十四隻ノ巡洋艦數カ尙不充分ナリトセハ一此ノ點ニ於ケル日本艦隊ノ甚大ナル援助ヲ銘記セサルヘカラス一現在七十隻ノ要求ハ果シテ過當ナリト云ヒ得ヘキモノナリヤ

次ニ予ハ戰爭中大艦隊司令長官トシテ貿易保護ノ任務遂行ニ關スル經驗ニ付テ述フヘシ我艦隊附屬ノ巡洋艦ノ任務ハ獨逸

軍艦及商船型襲撃艦カ北海ヨリ脱出スルヲ防止シ封鎖ノ遂行ヲ助ケ獨逸大洋艦隊ノ脱出ヲ監視シ其ノ脱出ノ場合之ヲ搜索スルニアリキ此任務ヲ果サンカ爲メ一九一四年予ノ率ヒタル巡洋艦隊ハ北海外ニアリタル舊式防護巡洋艦八隻ノ外裝甲巡洋艦八隻及輕巡洋艦十隻ヨリ成リタリ一九一六年ニ至リテハ裝甲巡洋艦八隻輕巡洋艦二十二隻及北海外ノ守備トシテ武裝商船二十四隻ニ増加セリ然レトモ一定ノ時ニ海上勤務ニアルモノハ巡洋艦勢力ノ一部分ニ過キササルヲ以テ以上ノ數ヲ以テスルモ尙北海ノ晝間警備ニ不充分ナリキ苟ンヤ夜間敵船ノ我監視ヲ潛ルヲ防止スルハ素ヨリ不可能ナリキ若シ予カ二若クハ其レ以上ノ巡洋艦ノ監視線ヲ有スル場合少クトモ其ノ中ノ一線ハ必スヤ北海ヲ脱出スル敵艦ニヨリテ晝間侵被セラルヘキヲ以テ予ハ之ヲ防止センカ爲用意ヲナスヲ常トス妨害ノ機ヲ多カラシムルカ爲警備線ヲ晝間ハ南部ニ夜間ハ北部ニ張レリ「セットランド」諸島ト諾威海岸間ノ距離ハ百五十哩ニシテ夫ヨリ南方百八十哩ナル「スコットランド」ト諾威間ノ最短距離ハ二百四十哩ナリ而モ「ヘリゴランド」島ヲ去ルコト二百五十哩ナリ故ニ北海ヲ脱レントスル獨逸軍艦カ諾威領海ヲ使用スルノ我國ニトリテ不利ナルハ之ヲ別問題トスルモ此長距離ノ線ヲ有效ニ監視スルニハ予ノ手許ニアル以上ノ巡洋艦ヲ必要トセリ予ハ屢々神力世界ヲ創造スルニ際シ英國ヲシテ少シク東北ニ寄ラシメ「セットランド」諸島ト諾威海岸トノ距離ヲ短縮シオキ呉レハ可ナリシト思ヘリ英國海軍省情報部組織ノ甚敷卓越セルニモ拘ラス又此情報機關ニヨリテ獨逸軍艦カ我貿易妨害ノ目的ヲ以テ獨逸軍港脱出ヲ企テ居レリトノ警告ヲ常ニ受ケ居タルニモ拘ラス尙此等ノ中半數以上ハ警備艦監視ヲ脱シテ其ノ目的ヲ達シタル事實ハ北海ニ於ケル我巡洋艦隊ノ不充分ヲ知ル絶好ノ證據ナリ只纔ニ「グライフ」及他ニ船名不明ノ一隻ノ二雙カ脱出ニ際シ撃沈セラレタルノミ又自國ヘ歸航ヲ企テシ侵破船モ亦其ノ目的ヲ達シタルコトヲ記憶セサルヘカラス

以上ノ外獨逸輕巡洋艦二隻ハ一九一七年諾威及「オークニー」間ニ於テ我商船護送艦ヲ攻撃破壊シ而モ本攻撃ノ前後ニ於テ多數ニ出動シ居タル我監視艦モ此等巡洋艦ヲ發見セサリシコトヲ記憶セサルヘカラス此等襲撃巡洋艦ハ速力迅速ニシテ夜陰ニ乘シ北海ヲ互リテ北航スルモノニシテ暗夜長時間ニ互ル海上監視ノ困難ハ到底陸上人ノ想像シ難キ所ナリ予ハ當時

軍令部長ナリシカ軍事參議員ヲシテ此ノ困難ヲ知ラシメンカ爲黒色ヲ海洋ノ部分ニ塗リテ暗夜ヲ表シ監視艦ノ最大限界ノ範圍(約半哩)ハ白色ヲ以テ示シタル北海ノ地圖ヲ作成シ之ヲ同院ヘ提出セリ其ノ結果地圖上ニ監視巡洋艦ノ數ニ相當スル數ノ「ピン」頭ノ半分大ノ小點ヲ畫キ一定時ニ於ケル巡洋艦ノ位置ヲ示スコトナリ軍事參議院モ敵艦ノ通路カ此等ノ移動點内ニ入ラサルニ於テハ巡洋艦ヲ批難スルコト能ハサルヲ知ルニ至レリ

次ニ吾人ハ或方面ニ侵破艦行動ノ報知ヲ受ケタル際ニ於ケル軍令部長ノ地位ヲ考慮セン彼カ當然考フルコトハ之ヲ追跡シ撃沈センカ爲多數ノ巡洋艦ヲ出動セシムルコトナリ然レトモ侵破艦長ハ或時期ヲ經過セハ其ノ出現ノ事實判明スルヲ知レルカ故ニ行動範圍ヲ變更スヘク從ツテ若シ軍令部長ニシテ或方面ノ配置艦ヲ他方ヘ移スニ於テハ右手薄トナリシ方面ニ危険ヲ生セシムルニ至ルコトナルヘシ之カ解決案ハ各方面ニ充分ノ巡洋艦ヲ配置スヘキコトニアリ而シテ吾人ノ本會議ニ要求シツツアル隻數ヲ以テ絶對安全ナリト想像スルハ大ナル誤ナルヘシ海洋ハ甚タ廣ク而モ之ニ比シ視界ハ甚タ狭小ナルカ故ニ敵艦發見ノ機會最モ少シ一九〇四年歐洲平和ナリシ頃英國海軍ノ所有巡洋艦ハ建造中ノモノヲモ加ヘテ百五十七隻其ノ總噸數七十五萬噸ナリシハ興味アル事實ナリ開戰當時ハ七十二萬噸ナリキ侵破艦カ美事追襲ヲ脱レタル事實ハ海軍史上多々アルモ大戰中ノ二實例ヲ舉ケテ此點ヲ強調スルニ止ムヘシ第一ハ開戰當時水雷布設艦ニ變更セラレタル獨逸商船「ベルリン」ナリ同船ハ一九一四年八月北海脱出ヲ企テタレトモ「スカゲラック」附近ノ我警備區域内ニ闖入シ歸航セルカ十月再脱出ヲ企テタリ此ノ際ニ於ケル同船ノ幸運ハ前例ヲ見サル所ナリ當時我大艦隊ハ加奈陀兵輪送中全部出動シテ北海脱出監視艦隊ニ配置セラレタリ「ベルリン」カ往路十月十六日ヨリ二十二日ニ互ル行動ヲ見ルニ十六日ニハ一艦隊ノ二十哩以内ヲ通過シ同日第二配置艦隊ノ視界ヨリ纔ニ離レタル點及第三配置艦隊ノ後尾十哩ノ點ヲ通過シ越エテ十七日ニハ第四艦隊ノ後尾及第五艦隊ノ十哩以内ヲ夜陰ニ乘シテ越エカクテ二十一日ニハ暗夜第六艦隊ノ十哩以内ニ來リ終ニ二十二日早曉ニ戰艦隊ト行動ヲ共ニシ居タル余カ旗艦「アイアン、デューク」ヲ去ル八哩ノ點ニアリタリ即チ視界狹ク且夜間ナリシ爲以上ノ場合終ニ發見セラレルコトナカリシナリ「ベルリン」ハ斯クテ水雷ヲ布設シ「アイルランド」北沖合ニ於テ「オー

デーシャス」ヲ沈没セシメタリ

第二ノ事例ハ世界各地ニ出沒シタル「エムデン」ニシテ而モ右ト時ヲ同シクス十月二十日夜「エムデン」ハ「セイロン」島附近ニ在リ同艦搜索ノ我巡洋艦二隻ハ集合航程ニ在リ若シ「エムデン」ニシテ所定ノ速力ヲ出スニ於テハ晝間此等巡洋艦ト衝突スヘキ筈ナリシカ捕獲物ノ爲速力遅レ其結果我巡視艦ト衝突スルコトナクシテ視力不十分ナル早朝其ノ後尾十乃至二十哩ノ地點ヲ通過セリ

以上ノ外貿易保護及戰時經驗ニ關シ尙他ニ重大ナル點アリ英國ハ大戰中巡洋艦タルト假裝商船タルヲ問ハス侵破艦ノ獨逸港ヲ脱出スルヲ防止スルニ地理上良好ノ位置ニアリタリ予ハ既ニ此ノ點ニ付キ大艦隊司令長官トシテノ困難ヲ述ヘタリ然レ共地中海ノ一強國トノ戰爭ハ除外トシ他國港ヨリ軍艦ノ脱出ヲ防止セントスル英國海軍ノ困難ハ千倍トナルシ事實何等ノ手段ニヨリテモ之ヲ妨クコト能ハサルナリ其ノ結果自然吾人ハ將來歐洲大戰當時以上ノ侵破船ヲ處理セサルヘカラサルヘク此事實ノミニテモ吾人カ此任務遂行ノ爲充分ナル巡洋艦ヲ有セサルヘカラサルコトヲ益緊要トスヘシ予ハ再言ス大戰中百十四隻ノ巡洋艦ニテモ尙不足ナリキトセハ吾人カ茲ニ要求スル七十隻ハ最低限度ナリト云ヒ得サルカ

子爵石井菊次郎氏―議長並諸君、會議ハ今ヤ專門委員會既ニ其ノ事業ヲ完了シ右報告ハ幹部會ニ提出セラレ（附屬書第七參照）幹部會ハ右報告ヲ審查シ三國代表間ニ意見ノ交換ヲ見ル程度ニ達セリ本總會ハ右ノ如キ會議ノ進行ニ鑑ミ各國代表カ其ノ地位ヲ再說スル適切ナル機會ヲ與フルモノナリ日本代表ハ英米兩全權ニ日本ノ立場ヲ率直簡明ニ説明セントス蓋シ率直簡明ニ依リテノミ吾人ハ良ク誤解ヲ避クルコトヲ得ルモノト確信スルカ爲ナレハナリ

（一）英國全權提出ノ主力艦及航空母艦ニ關スル問題ハ最初吾人ノ有セル訓令ノ言及シ居ラサル所ナリシモ吾人ハ英國案ガ國民ノ負擔ヲ輕減スル上ニ於テ顯著ナル效果アルヘキヲ信シ進ンデ我政府ノ新訓令ヲ求メタル處政府モ亦國費輕減カ本會議ノ主要ナル目的ノ一ナル所以ニ想到シ本會議ノ主題タル補助艦問題議了ノ後本問題ヲ討論スルノ權限ヲ與

ヘタルハ吾人ノ満足スル所ナリ

（二）補助艦問題ニ付テハ日本政府ハ補助艦ヲ水上艦及潛水艦ノ二種ニ區別シ討議スルヲ以テ合理的ニシテ且有效ナリト信シ聯盟軍縮準備委員會ニ於テ此ノ區別ヲ提議シタルカ今回ノ會議ニ於テハ議事ノ進捗ヲ計ランカ爲將來討議ノ余地ヲ留保シ假ニ水上補助艦ヲ二級ニ區別シ審議ニ携ルコトニ同意セリ

巡洋艦級ニ付キテハ其ノ艦齡、噸數、其ノ他ノ點ニ付英米ノ一方若クハ双方ト意見ヲ異ニスルモノアルモ日本側ハ協調ノ精神ヲ以テ三國間ノ妥協ニ達センコトニ銳意努力シツツアリ

又驅逐艦級ニ關シテハ驅逐艦及嚮導艦ノ最大單艦噸數及艦齡ニ關シ我主張ノ一部ヲ捨テテ英米側ト妥協スルニ至レリ潛水艦ニ付テハ局地的防禦用ノ小艦ヲ制限外ニ置クコトヲ以テ適當ト認メタリ吾人ノ如ク幾多ノ島嶼及海峽ヲ有スルモノニアリテハ多數ノ小潛水艦ヲ専ラ防禦用トシテ使用スルノ必要ナルハ自明ノ理ニシテ日露戰役中津輕海峽ヲ通過シタル數隻ノ露國軍艦ハ東京灣頭ニ於テ我商船ヲ擊沈シ太平洋沿岸ヲ脅威セリ斯ル苦き經驗ヲ有スルヲ以テ日本ハ多數ノ小潛水艦ヲ絕對ニ必要トスルモノナリ水上補助艦ニ於テ六百噸以下ノ小型艦ヲ制限ヨリ除外シ又六百噸以上ノ艦艇ニ於テモ速力及備砲ノ一定條件以下ノモノカ除外セラレタル以上ハ大洋航行用ニ非サル小潛水艦ヲ制限外トセサルノ理由ハ日本ノ了解シ能ハサル所ナリト雖モ吾人ハ妥協ノ精神ニ驅ラレ此ノ理由アル主張ヲモ拋棄スルコトヲ承諾シタリ

（三）吾人ノ協調ノ精神ニ對シ英米側ニ於テモ同様酬イラルル所アルハ吾人ノ大ニ多トスル所ニシテ此ノ機會ニ於テ感謝ノ意ヲ表セントス專門委員會ノ決定シタル假協定ノ如キハ重大ナル三國各自ノ讓歩及犠牲ナクシテハ達スルコト能ハサルモノナリ吾人ハ將來ニ於テモ各全權カ同様ノ精神ヲ以テ未タ協定ヲ遂ケサル巡洋艦問題ヲ圓滿ニ解決センカ爲努力ヲ繼續スヘキヲ信シテ疑ハス此目的達成ノ第一手段ハ討議ノ確固タル基礎ヲ發見スルニ在リ而シテ米國提案ハ英米ノ水上艦總噸數ヲ四十五萬噸乃至五十五萬噸トスルニ歸スル所吾人ノ目的カ軍備制限ニアル以上其ノ最小數ヲ以テ

出立點トナスヘキハ云フ迄モナシ故ニ日本全權ハ英米水上補助艦各四十五萬噸ヲ基礎トシテ討議セシコトヲ提議シ右基礎ノ下ニ日本ハ水上補助艦總噸數三十餘萬噸ヲ要求ス右數字ハ完成、建造中並計畫中ノモノヲ併セタル三國ノ總噸數ヲ一併三割減シタルモノニ相當ス吾人ノ茲ニ會スルハ海軍軍備ノ縮小ヲナシ以テ納稅者ノ負擔ヲ輕減スルニ在リ從テ各國ノ豫算及國民負擔ヲ現實ニ減小セサル制限ハ眞ノ制限ト云フヘカラス本會議ノ開會ニ際シ吾人カ何レノ國モ其ノ海軍勢力ヲ増加スルノ目的ヲ以テ軍艦ヲ建造シ又ハ取得スヘカラスト提議シタルハ全ク上述ノ考ヲ有セシヲ以テナリ

按スルニ會議ハ一方ニ於テ巡洋艦ニ關スル噸數ヲ成ル可ク低キ數ニ喰ヒ止ムルコトヲ欲シ他方ニ於テハ巡洋艦本來ノ任務ヲ盡スニ於テ缺陷ナカラシメ以テ各海軍ニ満足ヲ與ヘサルヘカラサル羽目ニアルカ故ニ此ノ兩者ノ意見殆ンド兩立スヘカラサルカ如キ要求ヲ調和スル爲ニハ各國ハ其ノ水上ニ補助艦ノ割當噸數以內ニ於テ一萬噸巡洋艦ノ噸數ニ思ヒ切リタル削減ヲ斷行スルヲ最良ナル方法ノ一ト認ム是レ吾人カ英米全權ニ向テ一萬噸巡洋艦ノ隻數ヲ英米各十隻以內日本七隻以內ニ限ルノ案ヲ提出シタル所以ニシテ兩國全權カ右ニ對シ友情の考慮ヲ拂ハンコトヲ請ハサルヲ得ス斯ク一萬噸巡洋艦ノ隻數ニ對シ大ナル制限ヲ斷行スル時ハ巡洋艦總噸數削減ノ上ニ著シキ效果アルト同時ニ其ノ餘力ヲ爾余ノ巡洋艦ニ振り向ケ以テ各國ニ必要ナル巡洋艦ノ數ヲ得ルコト不可能ニ非ルヘシ尙各國ニ對シ一定ノ範圍及條件ニ於テ割當總噸數ヲ超過シ又ハ代換濟ノ艦艇ヲ保有スルコトヲ許スカ如キ提案ヲ採用セハ各國ハ特殊ノ任務ニ服セシムルカ爲ニ必要ナル隻數ノ艦艇ヲ得ルノ途ヲ拓キ依ツテ前掲ノ如キ困難ナル事態ヲ緩和スルコト鮮少ナラサルヘシ吾人ハ英米兩國側此ノ提議ヲ採用シ專門委員會ヲシテ審査セシムルニ於テハ満足ナル結果ヲ得ルニ至ルヘキヲ信ス

惟フニ軍縮ノ最高目的ハ世界平和ノ維持増進ニ資スルニアリ假令各國間ニ軍備ノ制限ニ付協定成ルトスルモ若シ各國間ニ膨大ナル軍備ノ存在ヲ許スカ如キコトアラハ右ハ何等平和ノ保障トナルコトナカルヘク軍縮ノ使命ハ完全ニ遂行セラレタリト云フコトヲ得ス是レ吾人カ前記提言ヲ爲シタル所以ニシテ吾人ハ英米兩國カ同意スルニ於テハ如何ニ低ク制限スルコ

トモ承認スルノ用意アルコト茲ニ重ネテ聲明ス

議長―諸君、予ハ米國側ノ爲ニ一言目下友好ノ精神ヲ以テ繼續セラレツツアル本討議カ受諾シ得ル協定ニ到達セン事ヲ切ニ冀望スル旨ヲ述ヘテ「ブリヂマン」氏及石井子爵カ陳述セラレシ所ヲ補足セントス本會議ノ諸問題取扱ノ爲トレル方法ハ最初ニ容易ナル問題ヨリ初メ之カ解決ヲ宣明シ次テ更ニ困難ナル問題ニ入ルノ方法ヲ採ラサリシ爲樂觀ヲ許ササル印象ヲ形成セリ巡洋艦問題ハ最も困難ナル問題ニシテ此問題ニシテ解決セラルルニ於テハ協定起草前雜多ノ第二次問題ハ直チニ解決セラルヘシト吾人ハ等シク思惟ス

予ハ基本的問題タル巡洋艦問題ニ觸レスシテ其ノ他ノ補助艦種制限ヲ試ミントスルハ明ニ效果ナカルヘキカ故ニ是カ最良ノ接近方法タルコト一般ニ認メラレタルモノト信ス既ニ述ヘタル如ク專門委員ハ他ノ補助艦種ニ付多クノ假勸告ヲ協定セリ此等ノ勸告ハ試驗的ノモノニシテ巡洋艦問題ノ解決ニ關聯シテ採用セラルルニ非レハ確定的ニ採用セラルルコトアラサルモノナリ

吾人ノ原案ニ於テ述ヘシ如ク吾人ハ凡テノ補助艦種ニ付眞ノ制限ヲ協定センコトヲ欲シ討議ノ基礎トシテ各艦種ニ一定ノ噸數制限即チ水上補助艦タル巡洋艦及驅逐艦ヲ四十五乃至五十五萬噸トナスヘキヲ提議シタリ同時ニ吾人ハ他國ニシテ同意スルニ於テハ更ニ之ヨリ低キ噸數ヲ受諾スルノ用意アルコトヲ述ヘタリ吾人ハ最高噸數ヲ更ニ以上ヨリ高ク定ムルコトニ躊躇セサルヲ得ス只現存軍艦建造計畫ヲ制限シ且三國間ニ唯一ノ一致點ヲ供スルカ如キ場合ニ限り吾人ハ右ノ如キ高キ噸數ニ同意スルノミ

日本側ハ吾人ノ提出セル總噸政制限ノ實質的ニ一致セル提案ヲナセリ若シ右基礎ノ上ニ協定作成セラルルニ於テハ吾人素ヨリ之ニ満足スヘシ日米兩國カ實質上一致セル低キ制限噸數ト「ブリヂマン」氏カ海軍要求實現上必要ナリト主張セシ高キ制限噸數トノ間ニ於テ討議ノ基礎タルヘキ共通點ヲ發見スルニ大ナル困難ヲ生セリ此ノ協定ノ基礎タルヘキ共通點ヲ發見スルコト同時ニ眞ノ海軍制限ヲナシ且建艦競争ノ危險ト負擔ヲ除キテ條約ヲ眞ニ生カスヘキ數字ノ範圍內ニ於テ之ヲ發

見スルコトハ今ヤ本會議ノ解決スヘキ重要問題ナリ

吾人ハ特ニ輕巡洋艦ヲ必要トスル旨ノ英國側ノ意見ヲ大ナル興味ヲ以テ傾聽セリ吾人ハ伯爵「ジェリコー」提督ノ通商破壊者撃退ノ爲必要ナル海軍力ニ關スル驚クヘキ陳述ヲ聞ケリ何人モ大戰ニ於ケル通商破壊問題ニ付テ同氏ニ優ル權威ヲ有スル者ナク從ツテ予モ又氏ノ演說ヲ反駁スルモノト解セラレサルコトヲ欲ス然レトモ予ハ戰時ニ於ケル此種危難ニ平時ヨリ備フルニ付米國側ハ重大ナル疑問ヲ有スルコトヲ告白ス蓋シ斯ル通商破壊者撃破ノ義務ハ戰時各國海軍ノ任務トスル處ナルモ若シ平時此任務遂行ノ爲建艦ヲ爲スニ於テハ其ノ實巡洋艦制限ノ實現ニ到ルノ途ヲ閉スモノトナルコト明カナレハナリ

予ハ此機會ニ於テ米國ノ立場ニ關スル若干ノ根本原則ヲ陳フルハ時宜ヲ得タルモノト思惟ス海軍軍備ノ必要ハ相對的ノモノナルコト吾人ノ確信スル所ナリ此事實ハ華府條約起草ニ當リテ既ニ承認セラレ又實際ニ照シテソノ誤ニ非サルヲ保證セラレタリ故ニ一國ノ海軍制限ハ他國ノ制限ヲ可能ナラシメ反之一國ノ建艦計畫ハ他國ヲシテ之ニ相當スル計畫ヲ立テシムルモノニシテ主要海軍國間ノ友誼的協定ハ實ニ何等各自國防ノ安全ヲ害スルコトナクシテ大ナル軍備制限乃至ハ削減ヲ行フコトヲ得セシムヘシ吾人ハ絕對的海軍々備ノ必要ナル觀念ヲ承認スル能ハス相對的海軍々備ノ觀念コソハ實ニ國際的海軍制限協定ノ成立ヲ可能ナラシムルモノナリ若シ海軍々備ノ必要ニシテ絕對的ノモノト假定スルニ於テハ各國要求ノ當否ヲ判斷スルハ其ノ國自身ノ外ニナカルヘク果シテ然ラハ協定ニヨリテ軍縮ヲ行フコトハ不可能トナルヘシ他ノ根本原則ハ如何ナル協定モ建艦競争ノ弊ヲ除去スル眞ノ制限ヲ成就シ國際的不信ト疑惑ヲ一掃シ租稅ノ負擔ヲ輕減スル場合ニ限り是認セラルヘキコトナリ一定限度ヲ超過シテ建造ヲ爲ササル協定ト同様制限噸數ヲ高ク定ムル協定モ理論上之ヲ制限ト稱シ得ヘキモ右ハ唯名ノミノ制限ナリ制限噸數ヲ高ク協定スルノ結果租稅負擔ノ輕減及建艦競争ノ防止ヲ全ク沒却シ却ツテ國際的協定ニヨリ海軍擴張計畫ヲ是認スル如キコトナラハ當ヲ得タルモノト思惟セス

故ニ吾人ノ任務ハ相互的犧牲ニヨリテ制限協定ヲ作り以テ吾人ノ抱懷スル租稅負擔ノ輕減及建艦競争防止ノ趣旨ヲ成就ス

ルニアリ

吾人ノ所見ニヨレハ最モ公正ナル制限方法ハ各艦種別ニヨリ總噸數ヲ制限スルニアリ蓋シ此明確ナル規定ノ範圍内ニ於テ各國ハ其ノ特殊ノ要求、地理的位置、海外領土ノ保護及國家の安全ニ應シテ最モ適切ト考フル種類ノ艦艇及隻數ヲ建造スルノ自由ヲ有スヘケレハナリ若シ何レカノ一國ニシテ他國ノ意圖ニ對シ不信若クハ疑惑ヲ抱クモノアル場合ニハ吾人ハ相互ノ建艦計劃ノ内容ニ細心ノ詮索ヲナスコトヲ要求シ且備砲、艦艇、艦種及特性ノ均齊ヲ主張スルコトヲ得ヘシ然レトモ予ハ茲ニ出席セル諸氏ハ均シク我等相互間ノ衝突ニ烈シク反對セラルヘキヲ確信ス故ニ吾人ハ各國ヲシテ一定制限噸數以內ニ於テ其ノ適當ト認ムル艦種ノ建造ヲナサシムルモ差支ナキモノト信ス我國トシテハ條約ニ基ク概括的制限ノ範圍内ニ於テ各國カソノ欲スル種類ノ艦艇ヲ撰擇スルノ權利ニ對シ何等抗議セントスルモノニ非ス又吾人ハ米國カ其ノ特殊ノ要求ニ應シテ制限噸數ヲ運用スルニ於テハ米國ノ政策ニ對シ他國カ誤解ヲ抱クヘキ餘地ナキヲ確信ス

米國提案ノ主要目的ノ一ハ三國將來ノ補助艦建造ニ付最大ノ經費節約ヲ行ハントスルニアリ斯ル結果ハ明白ニ三艦種各種ノ最低總噸數ヲ協定確立スルコトニヨリテノミヨク達シ得ヘク單ニ單艦ノ噸數、備砲ノ口徑ヲ制限スルモ若シ右制限ニシテ軍艦ノ數ヲ増加セシムルニ於テハ之ヲ達スルコトヲ得サルナリ

經費節約ノ問題ニ關聯シ予ハ簡單ニ艦ノ大キサヲ縮小シ且艦齡ヲ延長セントスル提案ニ關スル米國ノ立場ヲ述フヘシ米國側ハ既ニ委員會ニ於テ聲明セルカ如ク他ノ諸問題ニ付キ協定成立後「ブリヂマン」氏提出ノ提案ニ豫備的考慮ヲ加フルノ用意アレトモ同時ニ目下此問題ニ付確定的解決ヲナス時機ニ非スト思考ス尤モ吾人ハ本問題ニ關シ今後四年間ニ有益ナル豫備的事業成就セラルルナラント信スルモノナリ三國共一九三一年ノ終迄主力艦ヲ起工セサルヲ以テ主力艦ニ關シ如何ナル決定ヲ本會議ニ於テ爲スモ此時機以前ニ何等ノ節約ヲ行ヒ得サルナリ又吾人ハ華府條約署名國ノ同意アルニ於テハ同條約ノ規定ニ從ヒ一九三一年ニ開カルヘキ會議ヲ同年八月十七日以前ニ早ク開催シタキ意嚮ナリ斯クスルニ於テハ茲ニ出席セル三國カ新主力艦建造ヲ行フニ先チ會議ノ決定ヲ實施スルニ充分ノ餘裕ヲ生スヘシ

「ブリヂマン」氏カ本總會ノ招集ヲ要求セラレシ主要目的ノ一ハ各國提案ニ關シ行ハレ居ル種々ノ誤解ヲ除去スル機會ヲ與フルコトニアリ其ノ内最モ頑強ナル誤解ハ一萬噸巡洋艦建造ニ關スル米國ノ態度ナリ此等巡洋艦ノ多數ヲ要求セル吾人ノ執拗ナル態度カ此種艦艇ノ總噸數ヲ低ク決定スルコトヲ妨ケタリト屢々陳述セラレタリ斯ル誤解ヲ除去スル最モ簡單ナル方法ハ隻數及艦型ノ問題ハ同時ニ合理的ナル總噸數ニ付協定ヲ見ルニ非スンハ有效ニ解決シ得スト吾人ハ信ス米國側ハ大型巡洋艦ノ隻數カ協定セラルヘキ總噸數ニヨリ決定セラルヘキコトヲ明瞭ニ述ヘ來レリ又協定作成ノ豫備トシテ吾人ハ二十五隻ヲ要求セリト屢々述ヘラレタリ若シ吾人カ主張セシ制限噸數ニシテ同意セラルルニ於テハ條約存續期間中大型巡洋艦隻數ヲ増加スルノ不可能ナルハ明白ナリ予ハ吾人カ噸數制限協定成立ノ上斯ル艦艇ノ隻數ヲ討議スルノ意アルコトヲ明白ニ他代表ニ通シ置ケリ

此ノ點ニ關シ一萬噸巡洋艦ハ之ヲ欲セサル世界ニ米國ニヨリ押付ケラレタルモノナリト云フモノアルモ本問題ヲ知ル者ハ何人モ右ヲ根據ナキ浮説トナサン一萬噸級型ハ華府一般協定ニ基キ討論外ノモノトシ又他國ノ同型巡洋艦所有ヨリ生スル現存情勢ニ應スヘキモノトシテ決定セラレタルモノナリ米國カ此種軍艦ノ建造ニ着手セシハ一九二六年後ニシテ既ニ他國カ建造ヲ始メタル數年後ノコトニ屬スルコトヲ諸氏ニシテ想起セラルルニ於テハ事情明白トナルヘシ米國ハ未タ此種軍艦ヲ一隻モ完成セス又一九二九年ニ至ル迄之ヲ完成セサルヘキノミナラス目下完成ニ近キ或ル國ノ計畫ニ對應スル既定計畫ヲ有スルコトナシ

此等ノ事情ヨリ考フレハ米國政府カ此種軍艦ノ存在及大型巡洋艦ノ建造競争ニ對シ責任ヲ負フヘキモノナリトノ主張ハ之ヲ支持スルコト困難ナリ

最後ニ予ハ此際ニ於ケル米國側ノ立場ヲ概説スヘシ吾人ハ巡洋艦ニ關スル協定成立スルニ於テハ驅逐艦及潛水艦制限ニ關シ三國間ニ急速ナル協定ヲ作ルニ何等重大ナル障礙ナカルヘキヲ確信ス又巡洋艦總噸數制限及其ノ艦型ニ關シテハ日本側ト極メテ密接ニ意見一致シ容易ニ協定ノ基礎ヲ發見シ得ヘシ然レトモ右協定ニテハ不充分ニシテ三國ノ合意ヲ要ス從テ若

シ日英兩國側カ相互ニ受諾シ得ヘキ基礎ヲ發見シ得ルニ於テハ米國側モ又之ニ參加シ之ヲ完全ノモノトスルコトヲ得ヘシト信ス

此事業ヲシテ成功セシメントセハ各國共犠牲ヲ拂ハサルヘカラス予ハ三國間協定ハ如何ナル專門技術的考慮ヨリモ遙ニ有效ニシテ斯ル協定ヨリ生スヘキ相互信頼及安全感ハ軍艦及備砲ノ數ヨリモ更ニ價值大ナルコトヲ述フルハ單ニ米國側ノ意見ナルノミナラス又同時ニ茲ニ參集セル日英側諸氏ノ見解ナルヘキヲ疑ハス若シ世界輿論カ本會議ノ結果ヲ以テ三大海軍國カ自由意思ニ基キ作成シタル自己否定ノ協定ト解セサルニ於テハ該決定ハ何等ノ價值ナク却ツテ大ナル有害ナルヘシ本問題ハ狹隘ナル技術的考慮ヨリ解決ヲ試ムヘキモノニ非ス須ク三國間ニ信頼ト了解トヲ増進セシムル一層寬仁大度ノ精神ヲ以テ完成ヲ計ルヘキモノナリ而シテ此精神ヲ以テノミ事業ノ成功ヲ成就シ得ヘシ

本日ノ會議ニ於テ更ニ何等カノ質問ナキヤ、本會議ヲ閉ツルモ異議ナキヤ、異議ナキニ於テハ本會議ハ茲ニ閉會トス

午後四時二十五分會議終了

第三、第三回總會

一九二七年八月四日（木曜日）午後三時、於壽府

出席者

米國側

ヒュー、ギブソン

海軍少將 ヒラリー、ビー、ジョーンズ

同 エイ、テイ、ロング

同 エフ、エイチ、スコフィールド

エイ、ダブリュ、ダレス

英國側

英 本 國

子爵

ダブリュ、シイ、ブリヂマン
セシル、オブ、チエルウッド
エイ、デイ、ビー、アール、パウ
ンド

海軍少將

イー、ラボアント

加 奈 陀

ダブリュ、エイ、リッデル博士

濠 太 利

サー、デエイ、クツク

新 西 蘭

海軍元帥、伯爵

デ エ リ コー

南 阿 聯 邦

海軍少將

デエイ、エス、スミット

愛 蘭 自 由 國

エム、マクホワイ

印 度

ダブリュ、シイ、ブリヂマン

日 本 側

海軍大將子爵

齋 藤 實

子爵

石 井 菊 次 郎

海軍中將

佐 分 利 貞 男

海軍少將

小 林 躋 造

事務總長

原 敢 二 郎

總書記局側

ヒュー、アール、ウイルソン

佛蘭西情報部員

伯爵

アール、エイチ、キヤムベル

海軍中佐

佐 藤 尙 武

海軍大佐

クラウズエル

海軍中佐

ド ル ー ズ

海軍中佐

ジャン、ボール、ボンクール

會議業績概観

議長―諸君、吾人カ本日茲ニ最終總會ヲ開催スル所以ハ會議ノ業績ヲ概観シ且協定締結ヲ不可能ナラシメタル見解ノ相違

ヲ概説センカ爲ナリ各國全權ハ各自國ノ立場ヲ陳述シ其ノ終了ヲ待ツテ議長ハ本會議ノ協賛ヲ求ムル爲共同宣言ヲ提出ス

ルコトトナレリ而シテ該宣言ハ若シ採譯セラルルニ於テハ閉會ノ決議トナルヘシ

各國全權ノ陳述ノ用意整ヒタルヲ以テ予ハ先ツ「ブリヂマン」氏ヲ指名セントス

「ダブリュ、シイ、ブリヂマン」氏―議長並ニ諸君、本日ノ結果如何ヲ問ハス吾人ノ討議カ決シテ無益ニ非サリシ事ハ議

長並ニ三國代表者大部分ノ同意セラルル所ナルヘシ予ハ吾人カ爲セシ種々ノ調査ハ軍備制限ニ一步ヲ進ムルノ效果アルヘ

シト思惟ス

三國何レモ其ノ目的トスル所ハ素ヨリ一ニシテ其ノ達成ノ爲ニハ或ハ二國相提携シ或ハ三國其ノ步調ヲ共ニシタリ或場合

吾人ハ各異レル道ヲ辿リタルモ若シ此等ヲ詳ニ檢討セハ結局吾人ノ發見シ得サリシ正道ヲ發見シ得タリシナルヘシ

英國政府ハ予ニ海軍軍備制限事業達成ノ爲吾人ノナセル努力及制限ニ對スル吾人ノ眞摯ナル希望ヲ表明スルコトヲ希望

第一會總會ニ際シ本會議ニ送ラレタル「クローリッヂ」大統領ノ教書ノ中ニ於テ吾人ハ「如何ナル形式ニ於テモ三國間海軍競争ヲ不可能ナラシムル」協定ヲ締結スヘキ命令ヲ受ケタリ右ハ其後次ノ三要點ニ關スル議長ノ聲明ニヨリ敷衍セラレタリ即チ（一）建艦競争ヲ廢止スルコト（二）侵略ノ觀念ヲ拋棄シ安全ト防禦トヲ考慮スルコト（三）經費ノ節約ヲ計ルコトノ三ナリ英國代表ハ其ノ提案ヲナスニ際シ常ニ忠實ニ以上諸點ヲ念頭ニ置クニ努力セリ

第一ハ競争ノ除去ニシテ吾人カ巡洋艦、驅逐艦、潛水艦ヲ各々二種ニ分類シ其ノ分類ニ屬スル各隻ノ最高噸數ヲ定ムヘキヲ提案シタルハ全ク此ノ目的ニ副ハンカ爲ナリ此分類ヲナサスシテ單ニ總噸數ヲ定ムルモ競争ノ危險ヲ除去スル能ハスシテ寧ロ之ヲ増進セシムヘシ即チ一國カ其ノ總噸數ヲ以テ大型軍艦ノ建造ニ充ツルニ於テハ他國モ之ニ倣ヒ引イテ攻撃力ノ縮小ハ愚カ其ノ擴大ヲ來シ又經驗ノ示スカ如ク大型軍艦カ標準型トナルニ至ルヘシ此事タル巡洋艦ヲ一萬噸備砲八吋以下ニ制限セル華盛頓會議ノ決定ニ照シ見ハ明ニシテ即チ其ノ結果ハ此ノ最高限ヲ以テ其ノ後建造セラルル多數巡洋艦ノ標準トセラレルニ至レリ

吾人カ大型巡洋艦即チ一萬噸備砲八吋艦ニ適用スヘキ比率ニ關スル米國提案ニ同意スルト共ニ其ノ隻數ヲ限定セント希望スルハ全ク此理由ニ基ク吾人ハ之以上此種巡洋艦ヲ建造セス又既ニ費用ヲ投セシ「ドルセツトシャイヤ」モ其ノ建造ヲ續行セス又米國ハ英國ト同數、日本ハ八隻迄所有シ得ヘキヲ提案セリ吾人ハ右以外ノ巡洋艦ハ一萬噸以下ニシテ又備砲六吋ヨリ大ナラサルヘキ旨ヲ提議セリ

驅逐艦ニ關シテモ米國提案ニヨレハ三千噸迄ノ大サノモノヲ建造シ得ヘク若シ此噸數ニシテ採用セラルルニ於テハ大型驅逐艦ト小型巡洋艦トノ間ニ殆ント差異ナキコトナリ一般ニ大型驅逐艦建造ノ趨勢ヲ馴致スルニ至ルヘシ是レ吾人カ嚮導驅逐艦及驅逐艦ノ大サ及武裝ヲ現存三國間慣例ヲ斟酌シタル數字ニ制限センコトヲ提議シタル所以ニシテ此點ニ付テハ幸ヒ吾人ハ三國ノ同意ヲ得タリ潛水艦ヲ二種ニ分類シタルモ同一ノ理由ニ基クモノニシテ之カ他ノ理由ハ攻撃力ヲ制限セン

トスルコトニアリ吾人ハ大型潛水艦ヲ大型巡洋艦ト同様攻撃ノ武器ト看做ス從テ吾人ハソノ型ト數トヲ制限シテ議長ノ所謂「侵略ノ意思アリトノ疑」ヲ避ケン事ヲ希望セリ

以上何レノ場合ニ於テモ吾人ハ備砲制限ヲ提言シタルガ備砲ノ關スル限り驅逐艦及潛水艦ニ關シ合意成立シタルハ予ノ欣快トスル所ナリ然レドモ排水量ニ關スル協定噸數ハ吾人ノ提案ノ數ヲ超過セリ

右諸提案ニ於ケル吾人ノ計畫ニシテ實現セバ各國經費ノ大ナル節約並納稅者ノ負擔ヲ減少シタルナルヘク吾人ハ議長ノ所謂「賢明ナル財政」ナル第三ノ指針ヲ無視セリトノ批難ヲ受クベキ理由ナキナリ節約ニ關シテ吾人ハ更ニ別個ノ提案ヲナシ其ノ實現ノ曉ニハ三國ヲシテ各數百萬磅ノ經費ヲ節約セシメントセリ即チ將來戰艦ノ大サヲ縮小シ且艦齡ヲ延長セントセル案是ナリ

一九三一年前ニ於テ戰艦ノ建造ヲ開始スルコトハ固ヨリ不可能ナリ然レドモ建造準備ハ龍骨据付ノ約二年前ニ開始セララルカ故ニ將來ノ政策ニ付キ現在何等カノ協定ヲナスヲ得バ吾人ハ大ニ不安不確實ヲ除去スルコトヲ得世界ニ好固ノ範例ヲ垂ルルコトナルヘシ英國ハ華府條約ニ於テハ十六吋砲搭載ノ戰艦噸數ヲ日米ト同數トシ以テ同條約ノ基礎タル五、五、三ノ比率ヲ確立センカ爲他ノ四隻ノ戰艦ヲ廢棄スル代リニ「ネルソン」及「ロドネイ」ノ二隻ヲ建造スルノ許可ヲ得タルニ係ラズ予ガ最初前述ノ提議ヲナシタル際右ハ英國ヲ永久ニ優勢ナル地位ニ置カントスル企圖ナリト誤解セラレタリ固ヨリ此等二隻ハ最終建造艦ナルガ吾人ノ提議ハ毫モ華府條約ノ戰艦噸數比率ヲ擾亂セントノ意圖ヲ有シタルモノニ非ス故ニ予ハ右提案ノ際同時ニ代換表ノ數字ニ若干ノ伸縮ヲ與フベキ旨ヲ以テセリ蓋シ予ノ目的トセル所ハ吾人ハ華府條約ノ比率ヲ保存スルニ必要ナル如何ナル變更ニモ同意スルノ意アルヲ示サントスルニアリタリ

予ハ一九三一年以前ニ豫測セラレサル事情發生セサル限り本會議カ少クモ戰艦型ノ縮小及艦齡ノ延長ニ關スル吾人ノ提議ヲ決議トシテ採擇センコトヲ希望セリ蓋シ之ニ依リテ經費ノ最大節約ヲ行ヒ得ベキカ故ナリ日本側カ吾人ノ意見ニ同情ヲ表シ又米國側カ他ノ點ニツキ合意成立セル後ニ於テ本問題ノ豫備的審議ヲナスニ同意セラレタルハ予ノ感謝スル所ナ

リ予ハ此方面ニ於ケル吾人ノ努力カ將來益々發展シ成果ヲ得ルニ至ランコトヲ希望ス此點ニ關スル明白ナル聲明ハ軍備縮小並ニ經費節約ニ大ナル進展ヲ齎スベシ

右ノ問題ニ關シ相當期間研究シタル後吾人ハ巡洋艦問題ニ米國側ト其數見解ノ不一致アルヲ發見セリ

當初米國側ハ「各國海軍ハ國家の安全ト兩立スル範圍内ニ於テ最低限度タルヘキコト」ヲ述ヘラレ吾人モ亦此點ニ關スル要求ヲ率直ニ述ヘタリ吾人ノ要求スル所ハ隻數ナリト述ヘタリ若シ大型巡洋艦ノ隻數及小型巡洋艦ノ大サノ最高限ヲ定ムルコトヲ得ルニ於テハ吾人ハ他ノ國カ一萬噸級八吋砲搭載巡洋艦ヲ無數ニ要求スル場合ニ比シ遙ニ低キ總噸數ヲ得ルコトトナルヘシ然レドモ米國側ハ總噸數内ニ於テ八吋砲搭載巡洋艦數ヲ制限スルコトニ對シ不同意ヲ表明セラレタリ吾人ハ多數ノ小型巡洋艦ヲ必要トスル理由ヲ闡明シタルガ未タ米國カ多數大型巡洋艦乃至八吋砲ノ如キ高度ノ攻撃力アル巡洋艦ヲ多數ニ必要トスル理由ヲ了解セサルナリ

吾人ハ英本國及自治領ノ地理的位置ヲ考慮セサルヘカラルヲ述ヘタリ吾人ハ「クーリッヂ」大統領ノ招請ヲ受諾スルニ際シテモ此旨ヲ述ヘ又英帝國ノ領土ハ海洋ニヨリテ分タレ其ノ最モ人口稠密ナル部分ハ食糧ヲ海上貿易ニ仰キ之ヲ保護スル能ハサルニ於テハ死滅ノ運命ニアルカ故ニ英帝國ニハ多數ノ小型巡洋艦絕對的ニ必要ナリト屢々繰返ヘシタリ固ヨリ吾人ト全然地理的位置ヲ異ニスル國家ニハ此點ニ關スル吾人ノ感情ヲ理解スルコト困難ナルヘキモ戰時最モ艱難ナリシ時故國ニアリシ英國人ハ何人モ窮境ニアリテ味ヒシ感情ヲ忘ルルコト能ハサルナリ月又月ヲ經ルニ從ヒテ次第ニ麵粉、肉類、砂糖其ノ他ノ食糧品ハ減少シ漸次飢餓ノ迫リ來ルヲ見ルニ至レリ故ニ斯ル危機ノ再來ニ對シテ我等自身及我等ノ子孫ヲ保護スル爲能フ限リノ準備ヲナス義務アリト各自力感スルハ固ヨリ當然ノコトト云ハサル可カラス

吾人ハ現ニ多額ノ租稅ヲ負擔シ經濟的窮迫ニ沈倫シ居レルモ戰時糧食原料ノ輸送ニ對シテ海上交通ヲ保全スル爲必要ナル經費ヲ惜シムモノハ英國ニハ殆ント一人モナカルヘシ吾人ハ之ヲ恐ルヘキ危險ニ對スル保險ト看做スモノニシテ他ノ保險ト同シク豫測セラレサル災害ニ對スル準備ニシテ或特定國ヨリ來ルヘキ危險又ハ現存脅威ニ對スル準備ニ非サルナリ吾

人カ米國ノ行動ニ基ク危險ヲ介意スルモノニ非サルノ充分ナル證據ハ吾人カ驅逐艦及潛水艦ニ於ケル米國ノ優越ニ何等不平ヲ述ヘサルコト及之等ニ付テ米國ト均齊ヲ保タンカ爲建造ヲナスノ意ナキコトニヨリテ明ナリ

吾人ハ吾人ノ要求及其ノ理由ヲ腹藏ナク陳述セリ

去ル一月四日海軍豫算ヲ米國下院ニ提出スルニ際シ下院海軍委員長「フレンチ」氏ノ爲シタル言ハ最モ好ク此問題ヲ説明セルモノナリ其ノ言ニ曰ク「英國船舶ニシテ海上航路ヲ閉サルルニ於テハ數週ヲ出スシテ英本國ハ窮境ニ陥ルヘシ、、然レトモ米國ヲ見ヨ米國ハ他國トノ交通ヲ封鎖セルルモ食糧、燃料油及諸種ノ原料ニ於テ何等窮迫スルコトナカルヘシ海上交通ヲ閉鎖セルルモ尙數週數年ヲ支フルニ足ルヘシ若シ必要アルニ於テハ米國ハ自國領土内ニ於テ其ノ國民ヲ自給シ又緊急ナル海軍需要ニ應スヘキ原料ヲ何時ニテモ製産スルヲ得ヘシ」ト、同時ニ吾人ハ吾人ノ所要噸數ヲ最低限度ニ止ムル爲努力セリ大戰直前吾人ハ百十四隻ノ巡洋艦ヲ有シ十年前ニハ之ヨリ更ニ多數ヲ所有セシカ今ヤ纔ニ最高限度七十隻ヲ要求シツツアリ吾人カ其ノ要求ヲ大ニ減少セサリシト果シテ何人カ云ヒ得ルモノゾ

第二回總會ニ於テ問題解決ノ障礙ハ吾人カ日英ノ見解ノ相違ヲ調和シ得サルニアリテ若シ日英兩國側カ相互ニ受諾シ得ヘキ基礎ヲ發見シ得ルニ於テハ米國側ハ協定ヲ完成シ得ヘシト指摘セラレタリ故ニ吾人ハ大ニ努力シテ吾人ノ要求ヲ日本側カ受諾シ得ヘキ形式ニ改メントシ日本側モ亦此同一目的達成ノ爲大ニ努力ヲ試ミタリ數日前公表シタル提案ハ全ク此努力ノ結果ナリ吾人ハ右提案ハ主要ノ點ニ於テハ日本側ニ依リ反對セラレサルヘシト了解ス右提案ハ吾人ノ既ニ爲シタル他ノ諸提案ト併セテ將來大ニ海軍軍備制限ヲ招來スルニ資スル所アルヘシ

七月二十七日下院ニ於ケル「オースチン、チエムバレン」氏ノ聲明ニ於テ詳細ニ説明セラレ且現ニ其ノ全文ヲ予カ本會議ニ配布シツツアル吾人ノ案ハ要スルニ華府協定ノ期限終了期タル一九三六年迄繼續スヘキ假協定ナリ予ハ又本案ニ包含セラルル提案草稿ニ簡單ナル説明ヲ加ヘテ配布シツツアリ

要之英國代表ノ提案ハ本會議ニ於テ爲サレタル他ノ如何ナル提案ヨリモ經費節約ニ貢獻スルモノナリ戰艦ノ大キサ、噸

數及備砲口徑ノ低下並艦齡延長ニ關スル吾人ノ提案ハ英國ニ於テ代換期間中五千萬磅以上ノ節約ヲ齎シ他ノ諸國ニ於テモ之ニ相應スル大節約ヲ齎スヘシ

又巡洋艦ニ關スル吾人ノ提案ハ大型巡洋艦ノ比率協定後ニ於テハ將來ノ建艦費一隻ニ付百萬磅ノ節約トナルヘシ驅逐艦及潛水艦ニ付テハ艦型及建造費ノ漸増の傾向ヲ停止スヘシ

上記各個ノ場合ニ於テハ吾人ハ建艦競争ヲ除去シ得ヘカリシナリ

上記各個ノ場合ニ於テ吾人ハ經費ノ節約ヲナシ得ヘカリシナリ

又上記各個ノ場合ニ於テ吾人ハ國家安全ヲ考慮スルト共ニ侵略ノ觀念ヲ吾人ノ心ヨリ排除セントセルモノナリ

吾人ハ吾人ノ原案ニ對スル反對意見ニ何ヲ以テ應酬セシヤ

吾人ハ腹藏ナク吾人ノ要求及其ノ理由ヲ説明シ又國家の安全ニ關スル吾人ノ見解ヲ述ヘタリ

吾人ハ各艦種ヲ適當ニ分類シ且各艦型ニ於ケル最高總噸數ヲ定ムル條件ノ下ニ總噸數ヲ規定スルニ同意セリ右見解ハ聯盟軍縮準備會議ニ於テ米國代表ノ同意セル所ニシテ予ハ本會議ニ於テモ必ス其ノ同意ヲ得ヘキモノト思惟シ居タリ

吾人ハ國家の安全ト兩立スル範圍ニ於テ其ノ總噸數ヲ最低限度ニ定メント努力セリ而シテ吾人ノ最後ノ努力ハ最近ノ提案トシテ具體化シタリ然レトモ驅逐艦及潛水艦ニ付テハ他國ノ要求ニ應センカ爲メ其ノ最高噸數ヲ引上ケ從テ縮小スヘキ噸數ヲ却ツテ引上ケサルヘカラサルニ至レリ

吾人ハ一定期間ニ互リ最高建艦計畫ヲ規定シ之ニヨリ各國ヲシテ他國ノ立場ヲ充分了解セシメントト提案セルカ右ハ受諾セラルルニ至ラザリキ

大戰後吾人ハ海軍制限ノ爲米國同様戰艦、巡洋艦、驅逐艦ヲ廢棄セルコト實ニ百七十九萬七千噸ノ巨額ニ達シタリ今日ニ於テ吾人カ協定成立ニ貢獻センカ爲充分ノ讓歩ヲ爲シタルモノニ非スト云フハ公平ナル批評ニ非サルヘシ

米國側ハ第二種巡洋艦ニ付六吋砲ノ制限ニ反對シ八吋迄ノ備砲ヲ搭載スル自由ヲ主張セリ予ハ其ノ理由ヲ了解スルニ苦シ

ムモノナレトモ吾人ノ態度ハ米國側ニ於テ非友誼の行動ヲ執ランコトヲ虞レタルカ爲ニ非サルコトヲ確言ス吾人本會議參加ノ目的ハ將來ノ軍備制限ニ存スルニ鑑ミ主要點ニ違背スル條項ニ署名シ得サルカ爲ナリ吾人ハ米國案ハ世界海軍ノ攻撃力ヲ著シク増進スルニ至ルモノト信ス

米國ハ何等ノ協定ナキモ將又會議ヲ召集スルコトナキモ一萬噸級八吋砲ノ制限内ニ於テ勝手ニ自己ノ欲スル隻數ノ巡洋艦ヲ建造スルノ力ト資力トヲ有スルハ明白ナリ

吾人ハ米國カ有效ナル制限ヲ將來スル爲將來ノ巡洋艦建造ニ於テ世界各國ノ規範トナルヘキ低キ標準ヲ定ムルニ吾人ト共ニ努力センコトヲ希望セリ

今ヤ何等總括の協定ニ達スルコトナクシテ散會スルハ吾人ノ最モ失望スル所ニシテ見解ノ一致スル諸點ヲ包含スル協定ナリトモ作成シ得タリシナラムニハセメテモ幸ナリシナラン

此點ニ付予ハ公式ニ提議スル所アリシモ受諾セラルルニ至ラザリキ予ハ今其ノ正文寫ヲ茲ニ配布ス(附錄第三號參照)

然レトモ今日各國カ承認シ得ヘキ方式ニ於テ協定スルコト不可能ナリトスルモ之レ三國間ニ相敵視スルノ精神存スルカ爲ニ非ス況ンヤ之ヲ以テ新建造競争ノ意思アリト解スルコト能ハサルハ勿論ナリ吾人ハ惡感又ハ失望ノ裡ニ解散スルニ非ス世界平和ハ形式的の言辭又ハ各國ノ必要ニ應シテ定メタル計數表ニ依據スルモノニ非スシテ寧ロ大國間ニ於ケル友好的の平和の精神ニ存スルモノナリ平和ノ精神存セスハ如何ナル方式ヲ定ムルモ平和ヲ確保スルコト能ハサルヘク若シ各國カ平和ヲ愛好シ侵略ヲ排斥スルニ於テハ假令方式ヲ協定スルコト能ハサルモ敢テ深ク憂フルニ足ラサルナリ予ハ本日茲ニ出席セル諸國ハ從前同様確乎トシテ平和ヲ愛好シ侵略ヲ排斥スルモノナルヲ信シテ疑ハス

本日予ハ此演說ヲ英本國及印度政府ヲ代表シテ爲スノミナラス予ハ加奈陀、濠太利、新西蘭及南亞弗利加政府代表ヨリ右諸代表モ亦予ノ演說ニ同意ナル旨ヲ述フルノ權限ヲ與ヘラレタルモノナリ

「ブリヂマン」氏演說附屬文書

附錄第一號

(一九二七年七月二十八日英國提案)

一九三六年迄有效ナルヘキ條約ニ規定セラルヘキ巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ニ關スル英國提案左ノ如シ

一、代換年齡以內ニアル巡洋艦、驅逐艦、潛水艦ノ合計總噸數ハ

英米各五十九萬噸

日本三十八萬五千噸

二、更ニ各國ハ第一項所定總噸數ノ二割五分ノ艦齡超過艦船ヲ保有スルコトヲ得

三、代換年齡左ノ如シ

一萬噸巡洋艦十八年

其ノ他ノ巡洋艦十六年

驅逐艦十六年

潛水艦十三年

四、六千噸以上ノ左記艦船ハ之ヲ保有スルコトヲ得

英國七、五吋砲「ホーキンス」級四隻

八吋砲「ヨーク」

六吋砲「エメラルド」級二隻

米國六吋砲「オマハ」級十隻

日本八吋砲古鷹級四隻

注意—本條項ノ目的トスル所ハ現存軍艦ニシテ尙其ノ最大能率ヲ保持スルモ一萬噸八吋砲級ニ入ラス又六千噸六吋砲以下ノ艦級ニモ入ラサルモノヲ保有セシメントスルニアリ英國代表ハ本條項ニ依リ合衆國カ此種八吋砲巡洋艦ヲ有セサルコトナルヘキニ鑑ミ同國ニ於テ三國海軍顧問ノ意見ニ徴シ英米ノ勢力ヲ均等ナラシムヘシト認メラルル此種若干艦船ヲ建造スルコトニ同意セントスルモノナリ

五、此他ノ巡洋艦ハ凡テ二階級ニ分ツ

(イ) 一萬噸巡洋艦

(ロ) 最大排水量六千噸ニシテ口徑六吋ヲ越エサル砲ヲ有スル巡洋艦

六、一萬噸巡洋艦ノ數ハ左ノ如ク限定ス

英米各十二隻

日本八隻

七、嚮導驅逐艦及驅逐艦ノ最大基準排水量ハ各千八百五十噸及千五百噸トス兩者共五吋以上ノ砲ヲ裝備スルコトヲ得ス
八、驅逐艦級ノ總噸數ハ其ノ全部ヲ千五百噸及其以下ノ艦船ニ充ツルコトヲ得ヘキモ總噸數ノ一割六分以上ヲ嚮導驅逐艦即チ千五百噸乃至千八百五十噸ノ艦船ニ充ツルコトヲ得ス

九、潛水艦ハ二階級ニ區分ス

A 級—千八百噸乃至千噸

B 級—六百噸以下

潛水艦ハ五吋ヲ超ユル砲ヲ裝備スルコトヲ得ス

一〇、潛水艦ハ其ノ階級及艦齡ノ如何ニ拘ハラズ最大總噸數左ノ如クナルヘシ
英米各九萬噸

日本六萬噸

此内三分ノ二以上ヲA級ノ潛水艦ニ充ツルコトヲ得ス

一一、第六、第八及第十項ノ制限ヲ除キ割當總噸數ハ各國任意ニ之ヲ利用シ得

附錄第二號

(附錄第一號七月二十八日英國提案說明書)

第一項ハ現役巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ノ總噸數ヲ英米各五十九萬噸日本三十八萬五千噸ト規定ス第二項ハ各國ヲシテ二割五分ノ艦齡超過艦ヲ保有セシム英國ノ關スル限リ此等巡洋艦ハ戰前又ハ戰時中ニ建造セラレタルモノニシテ速力及耐航力ヲ缺キ防禦の價值僅小ナルモノニ屬ス

第三項ハ大小巡洋艦、驅逐艦及潛水艦ノ代換年齡ヲ定ム右ハ專門委員會カ假ニ定メタル所ト合致ス

第四項ハ小型巡洋艦ニ付定メタル制限六千噸六吋砲以上ノモノニシテ且ツ一萬噸八吋砲以下ノ現存巡洋艦ヲ保有セシメン
トスルモノニシテ之ニ屬スヘキハ

米國—六吋砲「オマハ」級十隻

日本—八吋砲古鷹級四隻

英國—七、五吋砲「ホーキンス」級四隻、六吋砲「エメラルド」級二隻及八吋砲「ヨーク」一隻

然レトモ吾人ハ米國カ此種八吋砲巡洋艦ヲ有セサルニ鑑ミ三國海軍顧問ノ意見ニ徴シ英米ノ勢力ヲ均等ナラシムルヘキ若干ノ八吋砲巡洋艦ヲ米國カ増加スルコトヲ提議セリ

第五項ハ其ノ他總テノ巡洋艦ヲ二階級ニ分ツ

(イ) 八吋砲一萬噸巡洋艦

(ロ) 最大排水量六千噸備砲六吋ヲ超ユサルモノ

第六項ハ大型巡洋艦數ヲ英米各十二、日本八トス

以上二項ノ目的トスル所ハ既ニ説明シタルカ如ク世界海軍國間ノ競爭ヲ防止セントスルニ在リテ各國カ大型巡洋艦ヲ其ノ制限數以內ニテ建造スルヲ得ハ競爭ハ必ス防止セラルヘシ而シテ此以外ニ競爭防止ノ方法ナシ

英國ハ此以上ニ一萬噸級巡洋艦ヲ建造セサルヘク米國ハ英國カ現有スル既成及建造中ノモノヲ加ヘタル隻數迄、日本ハ八隻迄建造スルコトヲ得ヘシ

第七項ハ嚮導驅逐艦及驅逐艦最大噸數ヲ各千八百五十噸及千五百噸トシ備砲ヲ五吋トス

第八項ハ各國ヲシテ任意ニ驅逐艦總噸數ヲ小型驅逐艦建造ニ用フルヲ得セシム但シ嚮導驅逐艦噸數ハ全體ノ一割六分ヲ超ユルコトヲ得ストナス

第九項ハ既ニ述ヘタル如ク競爭防止ノ爲潛水艦ヲ

(A) 千噸乃至千八百噸級ノモノ及

(B) 六百噸以下ノモノ

ニ分類シ其ノ備砲ヲ五吋トス

予ハ驅逐艦、潛水艦ノ最大排水量ヲ定ムルニ當リ英國ノ數字ヲ採用セスシテ他國ノ希望セシ大ナル數字ヲ採用セルコトヲ再言ス

第十項ハ潛水艦總噸數ノ最大限ヲ英米各九萬噸日本六萬噸トシ大型潛水艦ハ全噸數ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス

第十一項ハ第六、第八、及第十項ノ制限ヲ除キ割當總噸數ハ各國任意ニ之ヲ使用シ得ルコトヲ説明シタルモノニシテ各國ノ特別必要ニ基キ或艦種ヨリ他艦種ヘ噸數變更ヲ爲スニツキ僅少ノ伸縮性ヲ認メタルモノナリ

附錄第三號

(八月四日英國提案)

現在小型巡洋艦ニ關シ完全ナル協定ニ達スルノ望ミナシトスルモ若シ本會議カ經費節約ヲ齎スヘキ何等ノ國際的協定ヲ締結シ得スシテ解散スルトセハ之レ大ナル不幸ナリ一萬噸級巡洋艦、嚮導驅逐艦、驅逐艦及潛水艦ニ付テハ既ニ意見一致スル所アリ戰闘艦ニ付テモ同様ノ一致ヲ見得ヘキカ如ク思惟セラル此等ノ結果ハ吾人カ希望セシ全部ニ非ストスルモ尙大ニ價值アルモノニシテ此機會ニ之ヲ協定シ得サレハ國際的不幸事タルヘシ故ニ吾人ハ會議カ全然失敗ニ終ルノ曉ニ於テ既ニ三國代表ニ暫定的ニ合意ノ成立ヲ見タル點ノミニテモ規定スル協定ニ署名スヘキ權限ヲ與ヘラレ居レリ

「ミカエル、ケクホワイ」氏一議長並ニ諸君、愛蘭自由國政府ヲ代表シ予ハ本會議カ種々討議ヲ重ネタルニ係ラス關係三國間ニ満足ナル協定ヲ作成スルコト能ハサルニ至リシコトヲ深ク遺憾トス

軍備縮小問題ハ一般ノ想像以上ニ困難ナル問題ナリ然レトモ本會議ニ於ケル困難ハ將來ノ軍縮ニ對スル努力ヲ挫折セシムルカ如キ性質ノモノニ非ス故ニ予ノ政府ハ他日機會到來シ軍備制限及最終的縮小ノ實現センコトヲ切望スルモノナリ

海軍大將齋藤子爵一議長並ニ諸君、日本側ハ先ツ第二回總會後水上補助艦問題ニ關シ日英海軍代表者間ニ行ハレタル會談ニ付キ述フルヲ適當ト信ス右兩國間ノ會談ハ望マシキモノナリシノミナラス事實必要ナリキ蓋シ先是割當總噸數ニ關スル日英兩國提案ノ差異廣大ニシテ三國間ニ何等協定ヲ遂ケントセハ該兩案ノ調和ヲ圖ラサルヘカラサルコト明カニシテ且各國代表ノ痛感セシ所ナルカ爲ナリ

右會談ノ結果兩國海軍代表ハ各自國全權ニ左記覺書ヲ提出セリ

一、水上補助艦總噸數

(A) 小林中將ノ申出シタル數字ハ

英帝國、、、四十八萬四千噸

日本、、、三十一萬五千噸

(B) 「フィールド」少將ノ申出シタル數字ハ

英帝國、、、五十萬噸

日本、、、三十二萬五千噸

二、總噸數ノ二割五分ニ當ル老齡艦保有

三、一萬噸級巡洋艦數ヲ左ノ如ク制限ス

英米各、、、十二隻

日本、、、八隻

四、左記艦船ノ保有

英帝國、、、「ヨーク」及「ホーキンス」級四隻

米 國、、、「オマハ」級十隻

日 本、、、古鷹級四隻

五、他ノ八吋砲巡洋艦ノ問題、日本ハ一九三六年十二月三十一日迄他ノ八吋砲巡洋艦ヲ建造スルノ意思ナシ

六、巡洋艦及驅逐艦ノ最大百分率ヲ協定スルコト

七、潛 水 艦

(A) 小林中將ハ日本ハ潛水艦約七萬噸ヲ要スト述ヘ

(B) 「フィールド」少將ハ三國共ニ潛水艦六萬噸ヲ提言ス

右會談ニ於テ吾人ハ第二回總會ニ提示セル數字ヲ多少増加シ總噸數問題ニ關スル英國ノ見解ニ副ハンコトヲ提議セリ三十一萬五千噸ノ數字ハ水上補助艦噸數ニ關シ吾人カ認容スルコトヲ得ル最大限タリシナリ然レトモ吾人ハ英國側カ其ノ水上

補助艦ニ關シ數字ヲ著シク減シテ五十萬噸ヲ提議シタル協調ノ精神ニ鑑ミ英國側ト妥協スル爲有ユル方法ヲ講スルヲ其ノ義務ト思考セリ問題解決ノ鍵ハ正ニ潛水艦噸數ニ於テ發見セラレ即チ日本ハ本來潛水艦七萬噸ヲ要求シタルモ英國側ハ三國各々六萬噸ヲ提議セリ吾人ハ今ヤ潛水艦ニ關スル英國ノ數字ヲ受諾シ我補助艦總噸數ヲ増加スルコトナクシテ我水上補助艦噸數ヲ英國ノ要求スル標準迄引上クルコトニ決シタル次第ナリ老齡艦保有ニ關シテハ吾人ハ第二回總會ニ於テ一定ノ範圍及條件ノ下ニ之ヲ許シ得ヘキ旨ヲ陳ヘタリ右ハ大戰前ニ建造セラレ又ハ然ラストスルモ戰鬪の價值限定セラレタル艦艇ヲ豫想セルモノナリ又其ノ後研究ノ結果割當總噸數ノ二割五分ノ比率モ高キニ失スルヲ感スル次第ナリ

一萬噸級巡洋艦ニ關スル英國側數字ハ我方提案ト相距ルコト遠カラサルカ故ニ吾人ハ之ヲ承認セリ
八吋砲搭載小型巡洋艦ノ制限又ハ全廢ニ關シテハ吾人ハ主義トシテ英國案ニ同意スルコト能ハサルモ吾人ハ前記總噸數ノ基礎ニ於テ一九三六年迄右八吋砲巡洋艦ヲ超エサル意思ナキカ故ニ日本ノ關スル限リ本問題ハ何等條約成立ノ實際的障害タラサルヘキ旨ヲ述ヘタリ

八吋砲搭載中級巡洋艦ノ保有ニ關シテハ日英兩國各々此種巡洋艦若干有スルニ對シ米國ハ一隻モ有セサルヲ以テ米國ニ對シ條約有效期間中一萬噸級巡洋艦割當隻數以外ニ更ニ若干ノ八吋砲巡洋艦ヲ建造スルノ權利ヲ認メンコトヲ提議セリ斯クノ如クシテ比較的重要ナル問題ニ關シテハ日英側ハ前記趣旨ニ依リ一種ノ假協定ニ達スルヲ得タリ吾人ハ右ニヨリ當面ノ難題ハ解決セラレ會議ハ今ヤ満足ナル結果ニ到達スルノ途開ケタルモノト希望セリ又英國全權ノ倫敦歸還ハ益々圓滿ナル解決ヲ促進スルモノタルヘキヲ豫期シタルニ前回ノ懇談會ニ於テ三國全權最善ノ努力ニモ不拘英米兩國側ニ意見ノ相違ヲ存シ一見調和ノ望ミ殆ント絶ヘタルヲ見テ深キ失望ヲ禁スル能ハサルモノアリ

主タル難關ハ依然トシテ巡洋艦問題中ノ割當總噸數特ニ備砲口徑問題ニ存セリ此點ニ關スル吾人ノ見解ハ必スシモ英國ノソレト一致スルモノニ非ス然レトモ前述ノ如ク吾人ハ既ニ日英間ニ或ル程度ノ一致點ニ到達シタルヲ以テ合衆國ヲ含ム三國間合意ノ基礎トスルニ足ルヘキヲ信シタリ吾人ハ英米側カ結局其ノ見解ノ一致點ヲ發見スルニ成功センコトヲ切望スル

カ故ニ此大事ヲ助成セン爲忠實且最善ヲ盡サント決意セリ

吾人ハ最後ノ試ミトシテ一ツノ假妥協案ヲ英米兩國代表ニ提出シタルカ不幸ニシテ採用セラレサリキ

崇高ナル希望ヲ持チ友好的雰圍氣ノ中ニ開會セラレ且軍事費經減ニ貢獻スルコト大ナルヘキ望ミ多カリシ本會議カ終ニ何等確定的協定ヲ見スシテ散會セントスルハ吾人ノ最モ遺憾トスル所ナリ實ニ特殊ナル友好關係ヲ有スル三國ノ會議カ成功ヲ見ルニ至ラス各國同意見ノ相違カ遂ニ一致點ヲ見出シ得サルヘシトハ何人モ思ヒ及ハサリシ所ナリ

然レトモ吾人ハ之ヲ以テ失敗ト稱スヘキヤ『商議ノ決裂』ト云フヘキヤ予ハ斯ル見地ヨリ之ヲ見ルコトヲ欲セス蓋シ軍費ノ浪費ト競争トカ事實上常識ニ依リテ制限セラルルカ如ク條約ニ依リ之ヲ制限セントスル努力ハ今後モ繼續セラルヘク其ノ終局ノ成效ハ疑フ餘地ナケレハナリ

「ギブソン」氏「予カ本總會劈頭ニ於テ述ヘタル如ク本會議ハ今ヤ成功ノ見込ヲ以テ繼續スルコト能ハサルニ至レリ「ブリヂマン」氏カ提出セラレシ案ハ英帝國側ノ最終的決定ナルニ鑑ミ予ハ「ブリヂマン」氏ニ日英米三國カ受諾シ得ル商議ノ基礎ヲ發見セントスル吾人現在ノ努力ハ最早成功ノ見込ナシト認メサル旨ヲ申入レ置キタリ

此機會ニ於テ予ハ本問題ニ關スル米國ノ見解ヲ稍詳細ニ陳述スヘシ之レ他國全權ト論争センカ爲ニ非ス見解ノ相違ヲ明白ニ述ヘテ他日ノ熟考ニ資シ以テ本問題ノ解決ヲ計シンカ爲ナリ

先第一ニ本會議ノ由來ヲ考フヘシ二月十日合衆國大統領ハ華府條約署名國ニ對シ同條約ノ原則ヲ補助艦ニ適用スル協定ヲ作成スル爲壽府ニ會スヘキ招請ヲ發シタリ英帝國及日本ハ之ヲ受諾セリ大統領カ本會議ヲ召集セシ動機ハ米國議會カ數次聲明シタル希望特ニ世界平和及國民負擔輕減ノ爲軍備ヲ有效ニ制限及縮小スヘシトノ一九二五年二月十一日ノ決議ニ遵據スルモノナリ大統領招請ノ意圖ニハ何等疑ヲ挿ムノ余地ナク從ツテ米國提案ノ内容モ相當正確ニ豫知シ得ラレシ筈ナリ即チ大統領ノ敎書ヨリ判斷シテ吾人カ華府條約ノ原則ヲ基準トシテ艦種別補助艦制限ヲ提議スルコトモ明ナリシナルヘク一九二二年華府ニ於テ米國ハ二種ノ水上補助艦艇ニ四十五萬噸ノ提議ヲナシタルカ爾來世界ノ情勢ニ何等ノ變化ナキニ鑑ミ

米國ノ提議セントスル噸數基準ヲ豫測スルコト敢テ困難ナラサリシナルヘシ
本會議開會當日米國側ハ右大統領招請ノ精神及文字ヲ嚴守シテ眞ノ海軍軍備制限ヲ目的トスル簡明且包括的提議ヲ爲シタ
リ吾人ハ右提案カ必ス日英兩國ノ同意ヲ得ヘキヲ確信セリ討議ノ基礎トシテ吾人カ提出セシ特定ノ數字ハ之ヲ受諾スルコ
ト能ハストスルモ妥當ナル制限ハ異レル艦種ニ於ケル最強海軍現勢ヲ基礎トシテ達成セラルヘシト思惟スルモ不當ニ非ル
ヘシ即チ英國ハ巡洋艦米國ハ驅逐艦及潛水艦ニ於テ右ノ數字ニ同意スルニ於テハ建艦競争ノ危險ヲ除去シ得ヘキナリ日本
側ハ米國提出ノ最低制限噸數ヲ基礎トシテ商議スルノ意アルヲ示シタルカ該最低噸數ハ米國カ現ニ有スル驅逐艦及潛水艦
ニ大縮小ヲ加フルモノナルコトヲ記憶セサル可カラス

然レ共英國ハ當初ヨリ現以上ノ多數巡洋艦ヲ要求シタルカ爲吾人ハ重大ナル困難ニ遭遇セリ英國側ハ専門委員會報告ニ
於テ四十八隻ノ現有巡洋艦ニ代エテ八吋砲巡洋艦十五隻小型巡洋艦五十五隻合計七十隻ヲ要求シタリ而シテ其ノ論據ハ英
帝國ノ絶對的海軍必要ニ在リトセラレタリ此ノ絶對的海軍必要ナル觀念ハ互讓ノ精神ニ立脚スル海軍制限條約ノ商議ト兩
立スルヲ得サルモノト吾人ハ思惟ス吾人ノ目的カ單ニ他國ト無關係ニ其ノ要求ヲ提出スルニアラハ眞ノ海軍制限協定ヲ作
成スル事ハ實ニ不可能ナリト云フ可シ更ニ吾人ノ不可解トスル所ハ平和ノ時ニ當リ而モ海軍經費輕減ヲ求メントスルニ際
シ英國政府カ何故ニ海軍擴張案ヲ以テ絶對的緊要事ナリトナスカノ點ニ在リ

吾人ハ英國側ノ見解ニ副ハンカ爲巡洋艦ニ關スル我原案ニ實質的變更ヲ爲スノ意アルヲ示セリ又最初將來ニ於ケル制限ト
シテ定メント欲シタルヨリ遙ニ大ナル巡洋艦噸數ヲ討議スルニ同意セリ之レ總テ隻數ニ關スル英國要求ニ應センカ爲ニ外
ナラス更ニ吾人ハ一萬噸級巡洋艦隻數ヲ討議スルニ同意シ且華府條約ニテ協定セラレシ八吋砲搭載ニ導クカ如キ最大單艦
排水量ヲ有セサルコトヲ條件トシテ第二級巡洋艦ヲ承認スルニ同意シタリ然レトモ英國ノ立場ニ應セントスル之等ノ努力
ハ後述スヘキ米國ノ提案ト共ニ不幸英國ノ満足ヲ買フニ至ラサリキ此以上ノ讓歩ハ吾人ノ必要ニ應スヘキ艦艇建造ノ權利
ヲ放棄スルコトトナルヘク若シ協定ヲ成立セシメント欲セハ吾人ハ相互ニ同程度ノ讓歩ヲ爲ササル可カラス吾人ハ率直ニ

海軍力ノ必要カ各國ニヨリ異ルコトヲ認メ英國海軍ノ必要ハ隻數ニヨリテ最モ良ク充ス事ヲ得トノ所論ヲ爭ヒシコトナシ
艦種別總噸數計當ニヨリ海軍制限ヲナサントスル方法ノ長所ノ一ハ各國カ其ノ特種ノ必要ニ應シテ其ノ割當噸數ヲ利用シ
得ルコトニ在リ然レトモ吾人ハ軍備制限條約ノ作成ハ擴張ニ非スシテ制限トナルヘキ總噸數内ニ於テ各國カ此等特有ノ必
要ニ應スルコトニ依據スルモノト信ス吾人ハ其ノ交通路ニ沿ヒテ多數ノ海軍根據地ヲ有スル英國カ若干數ノ小型巡洋艦ヲ
必要トスルコトヲ了解スルコトヲ得同時ニ米國ノ地理的位置ト華府條約ノ制限ニ基ク海軍根據地ノ缺乏ハ米國ヲシテ航海
範圍ノ長大ナル大型巡洋艦ヲ必要トスルコトモ之ヲ認メサルヘカラス更ニ吾人ハ英國側ノ承認シ得ル最低限度迄巡洋艦總
噸數ヲ切下クルノ意アル旨ヲ屢聲明シタルカ右ハ他國ヲ憂慮セシムルカ如キ建艦計畫ヲ立ツルノ意思ナキヲ明證スルモノ
ナリト信ス

英國側ハ其ノ提案ニ於テ八吋砲搭載大型巡洋艦數ヲ嚴ニ制限シ其ノ他ヲ六吋砲搭載小型巡洋艦即チ耐航範圍及防禦力ニ乏
シク米國ニ比較的效用少キ艦艇ノ建造ニ充ツヘキ協定ヲ作ラントシタリ此案ヲ承認センカ其ノ直接且明白ナル結果ハ英國
ヲシテ其ノ欲スル建造ヲナサシムルニ反シ吾人ニ必要ナル艦艇ノ建造ヲナシ得サルヘク而シテ英國ノ要求セル噸數基準ハ
既存噸數以上ニ之ヲ増加スルコトトナルヘシ

吾人カ多數ノ八吋砲搭載一萬噸巡洋艦建造ノ自由ヲ固執セルカ爲協定ヲ困難ナラシメタリトノ見解ニ對シ茲ニ一言スヘシ
英國側ハ此種巡洋艦ヲ以テ攻擊用艦艇ト稱シ所謂防禦用艦艇タル六吋砲裝備六千噸級巡洋艦ト區別ス斯カル區別ハ華府條
約ノ當時認メラレサル所ナリ八吋砲一萬噸級巡洋艦ハ華府條約ニヨリ規定セラレタルモノニシテ同會議ニ於ケル英國代表
之ヲ支持シ議論ノ余地ナキモノトシテ採用セラレタルモノナリ而シテ米國ハ此種巡洋艦ノ建造ヲ開始セルモノニ非ス英國
ハ此艦型ニ屬スル巡洋艦五隻ヲ既ニ建造シ六隻ハ建造中ニシテ現ニ九千七百五十噸ノモノ四隻ハ就役中ナリ合衆國ハ其ノ
建造約一割五分進行セル一萬噸巡洋艦二隻及最近契約ヲ結ヒタルモノ六隻ヲ有シ將來二ケ年間一隻モ就役スヘキモノナシ
而シテ此種巡洋艦建造ハ海軍軍備制限國際會議開催ノ場合ニハ大統領ニ於テ該法ニ基ク建造ノ全部又ハ一部ヲ停止スルノ

機能ヲ有スル旨ヲ規定セリ

英國側ハ八吋砲巡洋艦ノ攻撃的性質ト米國ノ目的ニ適合スルモノト英國側ノ思惟スル六吋砲巡洋艦ノ防禦的性質トヲ嚴ニ區別シタリ米國側ハ凡テノ軍艦ハ元來攻撃的性質ヲ有シ何レノ軍艦モ單ニ攻擊ニ對スル防禦ノ目的ヲ以テノミ建造セラルルモノニ非スト信スルモノニシテ六吋砲巡洋艦ニ純然タル防禦的任務ノミヲ認ムル理論ニ敬服スルコト能ハス英國側ハ此種艦艇ハ通商路ノ警備及海上商業ノ保護ヲナスモノナリト云フモ戰時海上貿易ヲ有效ニ保護スル爲ニハ此等艦艇ハ他國軍艦ニ對シテ海上ヲ遮斷セサル可カラス要之平時ニ於テ一國カ戰時商業保護ニ充分ナル巡洋艦保有ヲ主張スルニ於テハ國際協定ニヨル有效ナル海軍制限ハ全ク不可能事トナルヘシ

八吋砲巡洋艦數ヲ嚴ニ制限シ更ニ進ンテ八吋砲ヲ撤去シ之ニ代フルニ六吋砲ヲ以テスルコトヲ要求セラルルニ於テハ吾人ハ斯ル制限カ吾人ノ地位ニ及ホス影響ヲ考慮セサルヲ得ス蓋シ英國ハ約八十八萬八千噸ノ快速力商船ヲ有シ華府條約ニ於テ豫定セラレタル如ク之ニ六吋砲ヲ裝備シテ直ニ巡洋艦ニ變更シ得ルニ反シ米國ハ僅ニ此種商船十八萬八千噸ヲ有スルニ過キス「デエリコー」卿力巧ミニ説明セラレタルカ如ク軍艦ニ變更セラレタル商船ハ歐洲大戰ニ於テ重大ナル役割ヲ演シタリ

更ニ考慮スヘキ點ハ既ニ説明セシ如ク英國代表カ華府條約採用當時水上補助艦總噸數四十五萬噸ヲ以テ受諾シ得ヘク且妥當ナル數字トナシタルニ拘ハラス今ヤ華府會議當時ノ數字ヲ遙ニ超エタル六十四萬七千噸要求案ヲ提出セルコトナリ英國政府ノ態度ヲ斯ク變更セシメタル理由ハ果シテ那邊ニ存スルヤ英國ヲ憂慮セシムル如キ如何ナル新事情現出セリヤ海上ニ於ケル最強海軍ノ一ナリシ獨逸艦隊ハ既ニナシ吾人ノ知ル限り未タ海上強國ニシテ英帝國ニ脅威ヲ與ヘ得ルカ如キ計畫ヲ立ラタルモノナシ茲ニ代表セラレタル二國ヲ除ケハ有效ナル戰闘的價値ヲ有スル最近型巡洋艦ヲ有スル海軍國ハ全世界中纔ニ五ヲ以テ數フルニ過キス而シテ右ノ中最モ強大ナルモノモ約七萬二千噸ヲ所有スルニ過キス五國ヲ合セタル有效巡洋艦總噸數モ現在二十萬噸ヲ超エサルナリ

英國ハ其ノ提案ヲ以テ經費節約ニ貢獻シ米國提案ハ出費ヲ大ナラシムルモノナリト主張セリ吾人ハ之ヲ正當ト認ムル能ハス吾人ハ總噸數ノ低キ制限ヲ提議セリ之レ經費節約ノ意味スルモノナリ經費節約ハ總噸數低下ニヨリテノミ實現スルモノニシテ制限總噸數ノ範圍内ニ於テ各隻ノ單位噸數大ナル丈建造費運用費及維持費ヲ節約スルコト大ナルハ事實ナリ反之總噸數ヲ高ク定メ各隻ノ單位ヲ小ニスルハ必然不經濟ナリ予ハ米國案ハ明ニ大ナル節約ヲ來スモノナルコト竝ニ補助艦噸數ヲ現在保有高以上ニ増加スル案ハ不必要ナル負擔ヲ課スルモノナルコトヲ再言セントス

英國ノ最後案ハ總噸數要求ニ實質的減少ヲ示サス又會議當初ノ專門委員會ニ於ケル態度ヲ變更シ居ラス最近吾人ニ交付セラレタル案モ吾人カ當初ヨリ困難トセル點ヲ包含シ且潛水艦ヲ含ム補助艦合計總噸數ヲ提議シテ新ナル困難ヲ加ヘタリ此總噸數五十九萬噸ニ加フル所謂老齡艦二割五分ノ増加ヲ以テス而モ五十九萬噸ノ代換年齡ハ短縮セラレタルヲ以テ實際ニ於テハ本提案ハ有效補助艦七十三萬七千噸ヲ保有セシムルモノナリ之ヨリ英國カ以前提議セシ驅逐艦潛水艦ノ總噸數即チ潛水艦九萬噸驅逐艦二十二萬一千噸ヲ減少セハ少クトモ四十二萬六千噸ノ巡洋艦噸數ヲ生ス之レ現ニ建造中ノ艦艇完成ノ曉ニ於ケル英國巡洋艦噸數ヲ超過スルコト七萬五千噸ナリ右數字ハ英國提議ニカカル綜合總噸數制ノ下ニ驅逐艦及潛水艦噸數ノ一部ヲ巡洋艦ノ建造ニ利用スルニ於テハ更ニ大イニ増加スルコトヲ得ヘシ

總噸數制限條約ニ於テ斯ル數字ハ何等制限トナラス又假令條約ナシトスルモ各國ハ海軍軍備問題考慮ノ爲會合スヘキ一九三一年以前斯ル膨大ナル噸數ニ達セサルヘキハ明白ナリ故ニ英國案ノ近キ將來ニ於ケル結果ハ建造計畫ヲ制限セスシテ只艦型ヲ制限スルニ止マリ合衆國ニシテ右總噸數制限以内ニ於テ建造セントセハ其ノ必要ニ適セサル多數ノ六吋砲六千噸巡洋艦ヲ建造セサルヘカラサルコトナルナリ

予ハ合衆國カ巡洋艦總噸數制限以内ニ於ケル建造ノ自由ヲ如何ニ利用スルヤニ付キ英國政府ハ不必要ナル懸念ヲ抱ケルモノト思ハサルヲ得ス若シ巡洋艦總噸數英米各三十萬噸トスレハ其ノ一部ハ協定セラルヘキ隻數ノ大型巡洋艦建造ニ充テラルヘク而シテ殘余ノ大部分ハ既ニ合衆國ノ關スル限り總計約七萬噸ニ達スル六吋砲「オマハ」級トシテ使用セラレ居レリ

故ニ此點ニ於ケル實際上ノ問題ハ米國カ未タ完成セサル一定數ノ大型巡洋艦建造ノ外ニ將來此寡小ナル残余噸數内ニ於テ英國ニ懸念ヲ抱カシムヘキ程度ノ八吋砲第二級巡洋艦ヲ建造シ得ルヤ否ヤニアリ

米國ノ過去及現在ノ政策ニ照シ英國ノ懸念ハ何等其ノ基礎ナシト雖モ吾人ハ之ヲ除去センカ爲條約中ニ政治條項ヲ挿入スルノ可能ナルコトヲ提議セリ即チ一締約國ノ巡洋艦制限噸數以内ニ於ケル建造計畫カ他ノ締約國ニ危惧ヲ與フルニ於テハ一九三一年後何時ニテモ締約國會議ヲ召集シ得ヘク且之ニテ満足ナル協定ニ達スル能ハサルニ於テハ條約ハ間モナク失効トナサルヘキ趣旨ナリ吾人ハ一國カ條約終了前ノ短期間内ニ其ノ建造計畫ヲ其數進捗セシムルコト不可能ナルニ鑑ミ何故ニ此提議カ英國ノ危惧ヲ緩和シ得サリシヤ知ルニ苦シム更ニ予ハ米國ノ政策ハ何等英國ニ危惧ヲ與フルモノニ非サルヲ確信スルヲ以テ斯ル條項ヲ提議スルニ何等躊躇セサリシコトヲ附言ス

米國側ハ英米兩國民ノ心理ニハ兩國間ノ戰爭ハ既ニ「アウトロー」セラレタリトノ英國外相最近ノ聲明ニ痛ク感動スルモノナリ吾人ハ右見解ニ全然賛意ヲ表スルモノニシテ吾人ノ此誠意アル同感ノ念ハ英國カ吾人ト全然均齊ヲ失スル巡洋艦勢力ノ建造ヲナシタルニ拘ラス米國政府カ何等ノ不安懸念ヲ示ササリシ事實ニヨリテ立證サレタリ然レトモ吾人ハ兩國間ノ戰爭ハ既ニ「アウトロー」セラレタリトノ英國ノ信念ハ吾人ノ欲スル艦型ヲ一定數丈建造スル權利ヲ否認セントスル英國現在ノ態度ト矛盾シ又本條約ノ有效期間内ニ吾人カ小數八吋砲巡洋艦ヲ所有スルヤモ計ラレサルコトヲ危惧シ而モ斯ル危惧ハ條約義務ヨリ脱退ヲ許ス政治的條項ニヨリ完全ニ除去シ得ルニ係ラス英國カ本會議ノ成功ヲ危クセントスル態度ト矛盾スルモノナルヲ感セスンハアラス

本演說ヲ終ルニ先チ予ハ米國側ノ名ニ於テ日本側ニ向ヒ其ノ爲サレタル提案並噸數制限ニ關スル米國案ニ關シ與ヘタル支持ニ對シ感謝ノ意ヲ表セント欲ス吾人ハ現有噸數基準又ハ其以下ノ軍備制限ヲ實行セントスル日本ノ強キ願望ハ世人ニ深キ印象ヲ與フヘキヲ確信ス

吾人ハ海軍制限ニ關スル見解ノ相違ヲ調和スルヲ得サリシヲ甚タ遺憾トス吾人ハ大局ヨリ見テ主要海軍國間ノ協定ハ世界

軍備制限ノ將來並人類平和ノ爲絶對ニ必要ナリト信ス吾人ハ近キ將來ニ於テ三國トモ軍備ノ大ナル削減ヲナスヘキ嚴正ナル制限ヲナシ從テ租稅負擔及戰爭ノ恐怖ヲ減少シ得ルモノト信ス吾人ハ若シ三大國カ此ノ制限及縮小ヲ爲ス意アルニ於テハ三國政府間及其ノ通商路並海外領土ニ何等ノ危險ナカルヘキヲ信ス吾人ハ本問題ヲ有ユル事態ニ處スル必要ノ見地ヨリ取扱ハス更ニ廣ク且高キ見地ヨリ取扱フヘキモノナリト信ス

過去百年間ノ歴史ヨリ見ルモ將來三國ハ平和ヲ維持セントシ又維持スヘキコト明カニシテ海軍制限問題モ三國間ノ戰爭ハ考ヘラレサルモノナリトノ基礎ノ上ニ審議ヲ進ムヘキモノナリ本會議ノ中絶ハ之ヲ以テ有效ナル制限方法ヲ協定スルコト永久ニ不可能ナルヲ示スモノト解スヘキニ非ス吾人ハ海軍軍備問題全般ノ徹底的研究ノ結果各國政府ノ意見ヲ調和スヘキ方法發見セララルニ至ランコト及遠カラス補助艦ノ大制限ヲ規定スル満足ナル協定成立センコトヲ希望スルモノナリ

最後ニ予ハ米國側ヲ代表シ日英兩國側ノ同僚ニ厚ク敬意ヲ表ス本問題ニ關シ諸氏ト共ニ働キシコトハ吾人ノ特權トスル所ニシテ此際協定成立ヲ見サリシト雖モ吾人ノ努力ハ吾人ノ凡テカ受諾シ得ル將來ノ協定ニ向テ一步ヲ進ムルモノナリト信ス吾人ハ凡テ吾等三國間ノ了解ト交誼トヲ進メントスル眞摯ナル希望ニヨリテ相提携セルモノニシテ予ハ協定不可能ナリシコトハ毫モ海軍軍備ノ實質的制限達成ニ對スル吾人ノ努力ヲ挫折セシムルモノニ非スト確信スルモノナリ

共同宣言提出ニ先チ予ハ佛伊代表者ヲ本會議ニ迎ヘ商議ノ經過ヲ熟知セシメタルハ大ニ吾人ノ欣快トスル所ナルコトヲ日英米三國側ニ代リ述フヘキ旨希望セラレタリ予ハ本議會ニ於テ米國側ニ代リ(他ノ代表モ同様ナリト信ス)國際聯盟事務總長ニ對シ其ノ寛宏ナル援助ヲ深謝ス又「ハワード、ハストン」氏ノ有力ナル指揮下ニ在リシ總書記局員ニ感謝ス氏ハ吾人ニ種々ノ便宜ヲ與ヘラレ且尤大ナル本會議記録事務ノ迅速有效ナル處理ニ貢獻セラレタリ予ハ同僚諸氏ト共ニ總書記局長カ吾人ノ謝意ヲ「エリック、ドラモンド」氏ヘ傳達セラレンコトヲ希望ス予ハ茲ニ共同宣言ヲ朗讀スヘシ

共同宣言

『米國大統領ノ提議ニ從ヒ米國大統領、英國皇帝陛下及日本皇帝陛下ノ任命セル全權委員ハ補助艦制限ヲ考量スルタメ六

會議ハ同日ヨリ八月四日迄繼續セラレ其ノ間全權並ニ顧問ハ本目的達成ノ各種方法ニ付詳細ニ互リ考量セリ多數重要ナル問題ニ付豫備の合意ニ到達シタル所其ノ或部分ハ専門委員會報告中ニ收メラレタリ此等合意ノ諸點ハ専ラ驅逐艦及潛水艦ノ制限ニ關スルモノニシテ會議カ巡洋艦制限問題ヲ討議スルニ及ンテ初メテ難關ニ逢着セリ此等ノ難關ハ各國政府ガ本問題並ニ之カ解決ノ爲提示セラレタル各種ノ方法ニ對シ更ニ考量ヲ加フルノ機會ヲ得ル迄現在ノ交渉ヲ延期スルノ得策ナルヲ思ハシムル底ノモノナリキ

米國全權ハ其ノ當初提出セル總噸數即チ巡洋艦級ニ於テ英米各二十五萬噸乃至三十萬噸日本十五萬噸乃至十八萬噸ノ制限内ニ於テ各國ハ各自國ノ要求ニ最モヨク適應スト思考スル隻數及種別ノ艦船ヲ建造スルノ自由ヲ有スヘク同時ニ華府條約ノ制限内ニ於テ其ノ適當ト認ムル兵裝ヲ施スノ自由ヲ有スヘシトノ意見ヲ提示セリ

英國全權ハ一切ノ種類ノ艦艇ニ付其ノ大サヲ制限スヘキヲ提議シタルモ總噸數ノミニ依リ制限セントスルノ主義ニ對シ斯クテハ最大艦船及最大備砲カ自ラ標準トナルニ至ルノ虞アルヲ理由トシテ反對セリ英國全權ハ先ツ一萬噸八吋砲巡洋艦ノ數ヲ嚴重ニ制限シ次ニ口徑六吋排水量六千噸ヲ限度トスル第二級巡洋艦ヲ設定センコトヲ要望シ右第二級巡洋艦ノ設定ニヨリテノミ英帝國ハ總噸數ヲ不當ニ擴大スルコトナクシテ其ノ特殊ノ事情及必要ニ應スルニ缺クベカラザル隻數ニ達スルコトヲ得ヘシト主張セリ

日本全權ハ眞ニ補助艦ヲ制限センカ爲ニハ低キ總噸數ヲ定メサルヘカラズトノ見解ヲ開示セリ八吋砲巡洋艦ノ問題ニ付テハ日本政府ハ主義トシテ如何ナル制限ニモ同意スルヲ得スト雖モ若シ日本ノ割當水上補助艦噸數ニシテ三十一萬五千噸ニ決定セラルル場合ニハ既定計畫ニヨルモノヲ除キ一九三六年迄此上八吋砲巡洋艦ヲ建造セサルコトヲ聲明スルヲ難シトセサリキ

上記各種ノ異レル見解ヲ調和センカ爲種々ノ方法ヲ考究シ相當ノ成績ヲ擧ケ意見ノ相違ヲ減少スルヲ得タリト雖モ主トシ

テ六吋砲ヲ備フル多數ノ艦船ヲ得ントスル英國全權ノ要求ト出來得ル限り低キ總噸數ヲ設ケ其ノ範圍内ニ於テハ華府條約ノ制限ヲ超ヘサル限り兵裝ノ自由ヲ認メントスル米國全權ノ希望トヲ調和スル適當ノ案ヲ發見セサリキ

右困難ニ顧ミ三國全權ハ一先ツ會議ヲ休會シ茲ニ各自ノ所見ヲ率直ニ聲明シ問題ヲ更ニ各本國政府ノ攻究ニ委ネ依テ以テ近ク解決ニ達センコトヲ期スルノ賢明ナルコトヲ信スルモノナリ

尙三國全權ハ華府海軍條約第二十一條第二項ニ基キ召集セラルベキ會議ハ締約國ノ協議ニ依リ右條項ノ豫定セル一九三一年八月ヨリモ早キ期日ニ於テ之ヲ開キ右會議ニ於テ決定セラルヘキ協定事項ハ同年十一月主力艦建造計畫ノ實行ト同時ニ其ノ效力ヲ生セシムルヲ適當ト認メ其ノ趣旨ヲ以テ各本國政府ニ進言センコトヲ約ス

以上各項ノ進言ヲ爲シ而シテ各國間ニ一致ヲ見タル諸點並ニ一致ヲ見ルニ至ラサリシ事項ニ關スル前諸項ノ報告ヲ提出スルニ當リ三國全權ハ今回會議ノ遭遇シタル障礙ハ海軍々備制限ニ一步ヲ進メントスルノ努力ヲ終止セシムルモノニアラスシテ寧ロ各國間ニ到達シ得タル合意ノ程度ニ顧ミ將又今回ノ會議ニヨリ各自ノ立場ヲ闡明シ得タルノ點ニ於テ各本國政府間合議ニヨリ見解ノ相違ヲ調和シ遠カラス補助艦制限ニ關スル協約ヲ完成シ經費節減ノ目的ヲ達スルト共ニ各國國防ノ安全ヲ害スルコトナクシテ相互信頼及親善關係ヲ助長スルニ至ルヘキヲ確信スルモノナルコトヲ茲ニ記錄ニ留メント欲ス

諸君、別ニ反對ナキニ於テハ本宣言ハ閉會ノ決議トシテ採擇セラレタルモノトス

「ブリヂマン」氏―議長並諸君、予ハ茲ニ全諸君ノ同意ヲ得ベシト信ズル提案ヲ爲スノ特權ヲ有ス即チ本會議ニ於テ議長ノ職責ニ就カレタル「ギブソン」氏ニ衷心謝意ヲ表セントスルコトナリ氏ノ職責ハ容易ノ業ニアラス一時ニ三者ヲ統御スルハ二者ヲ統御スルニ比シ遙ニ困難ニシテ氏ガ出來ル丈ノ禮節ト考慮トヲ以テ其ノ義務ヲ遂行セラレタルハ萬人ノ等シク認ムル所ナリ吾人ハ氏ノ職務ヲ容易ナラシメ且慎重ニ行動セント努メタルガ若シ予ガ多少ナリトモ氏ニ不快ヲ與ヘタリトセバ予ハ之ヲ寛容セラレンコトヲ希望ス若シ吾人ニシテ甚數不秩序ナル集團ナリシトセハ氏ハ他ノ方法ニ依リテ吾人ヲ處

理スルコトヲ知リタリシナルベシ吾人ハ快活ト禮節トヲ以テ會議ヲ司會セラレタル氏ニ感謝シ併テ氏カ困難ナル任務ノ後
休息セラレンコト及氏ノ將來ノ成功ヲ祈ツテ已マサルモノナリ

齋藤子爵—日本側ハ英國全權ノ動議ヲ衷心支持ス

議長—予ハ「ブリヂマン」氏ノ議長ニ對スル謝意表示ノ動議並ニ齋藤子爵ノ右動議支持及兩氏ノ友好的言辭ニ謝意ヲ表ス
幸ニシテ本會議ニ於ケル凡テノ事項ニ付キ示サレタル兩全權ノ援助ニヨリ議長ノ任務ハサシテ困難ナルモノニ非サリキ予
ハ本會議ニ於テ日英兩國全權ト相交リシコトヲ記念スヘキ特權トシ且予ニ向ツテナサレシ謝意表示ヲ深く銘記スルコトヲ
茲ニ再言シ得ルノミ

予ハ茲ニ本會議閉會ヲ宣ス

午後四時十五分會議閉會

第四編 幹部會議事錄

附、一九二七年六月二十四日非公式幹部會議事錄

議長 ダブリュ、シイ、ブリヂマン

第一、第一回幹部會

一九二七年六月二十一日火曜日於壽府

出席者

米國側

海軍少將

ヒュー、ギブソン
ヒラリー、ビー、ジョーンズ
エイ、ダブリュ、ダレス

英國側

子爵

ダブリュ、シイ、ブリヂマン
セシル、オブ、チエルウツド
サー、エフ、エル、フイーールド

海軍中將

日本側

海軍大將子爵

齋藤實

子爵

石井菊次郎

佐分利貞男

海軍中將

小林躋造